

# 第4次 新城市食育推進計画



愛知県新城市

令和4年3月策定

# 目 次

## 第1章 計画策定にあたり

1-1	策定の背景	1
1-2	位置づけ	1
1-3	計画の期間	2

## 第2章 現状と課題

2-1	現状と評価	
	(1) 市民アンケート	3~10
	(2) 第3次期間中の取組	11
2-2	第3次計画から見えた新たな課題	12

## 第3章 基本的な考え方

3-1	基本目標と施策	13~15
3-2	主な取組	16~18

## 第4章 推進に向けて

4-1	行動指針	19~20
4-2	目標指針	21
4-3	推進体制	22

## 資 料

新城市地産地消食育推進協議会委員名簿	23
食育基本法の概要	24
食育推進キャラクター紹介	25~27
食育に関する市民アンケート結果	28~42

# 第1章 計画策定にあたり

## 1-1 策定の背景

食は私たちが生きていくためには欠くことのできない大切なものです。

食をめぐる環境の変化に対処し、生涯にわたって健全な食生活が実践できるように、国は平成17年7月に「食育基本法」を施行し、平成18年3月に「食育推進基本計画」を策定しました。

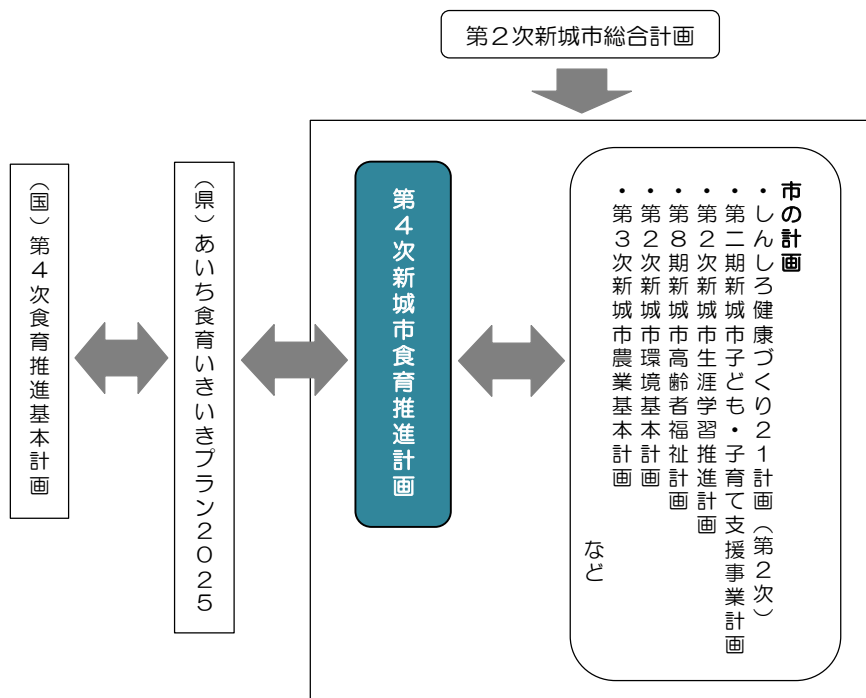
愛知県は平成18年11月に第1次食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン」を策定し、国や県はそれぞれの計画に基づき、食育を総合的かつ計画的に推進してきました。

新城市においても、市民の心身の健康の増進と豊かな人間形成、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践する施策を展開するため、平成21年3月に「新城市食育推進計画」を策定し、「第2次新城市食育推進計画」を経て、平成29年3月に「第3次新城市食育推進計画」を策定し様々な取組を行ってきました。計画期間満了に伴い、市民アンケートの実施による現状の把握と、そこから見える課題に対応するための見直しを行い、第4次新城市食育推進計画(以下「本計画」という。)を策定します。

## 1-2 位置づけ

本計画は、「食育基本法」に基づく国の「第4次食育推進基本計画」、県の第4次愛知県食育推進計画「あいち食育いきいきプラン2025」などの関連計画と整合を図りながら推進をしていきます。

本計画の策定にあたり、食育に関係する機関、団体、庁内の関係各課で構成された「新城市地産地消食育推進協議会」において審議検討を行いました。



### 1-3 計画の期間

本計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。この計画は、「食育基本法」や国の「第4次食育推進基本計画」及び県の「あいち食育いきいきプラン2025」との整合性を持たせています。また、食をめぐる社会情勢も変化することが考えられるので、計画の実施状況によっては計画の見直しが必要になることが考えられます。

このため、計画期間終了前であっても必要がある場合には見直します。

平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
（国）第3次食育推進基本計画					（国）第4次食育推進基本計画					
第3次愛知県食育推進計画					第4次愛知県食育推進計画					
第3次新城市食育推進計画					第4次新城市食育推進計画					



## 第2章 現状と課題

### 2-1 現状と評価

#### (1) 市民アンケート

計画見直しのため、令和3年11月から12月にかけて食に関する調査として市内こども園の5歳児、小学校5年生、中学校2年生がいる家庭、新城有教館高等学校2年生及び市民へアンケートを実施しました。過去の計画の策定時にも現状把握のため同様にアンケートを実施していますので、比較して項目ごとにまとめ、計画目標の達成状況や市民の食生活の現状について把握しました。

#### 〈回答率〉

##### 平成20年

対象	回答者	配布数	回収数	回答率
幼稚園・保育園	家族	421	356	84.6%
小学5年生	〃	516	444	86.0%
中学2年生	〃	537	455	84.7%
事業所	就労者	359	269	74.9%
合計		1,833	1,524	83.1%

##### 平成23年

対象	回答者	配布数	回収数	回答率
幼稚園・保育園	家族	383	338	88.3%
小学5年生	〃	957	386	40.3%
中学2年生	〃	957	386	40.3%
事業所	就労者	150	124	82.7%
合計		1,490	848	56.9%

##### 平成28年

対象	回答者	配布数	回収数	回答率
こども園	家族	372	279	75.0%
小学5年生	〃	821	577	70.3%
中学2年生	〃	821	577	70.3%
高校2年生	生徒	180	171	95.0%
事業所	就労者	308	231	75.0%
合計		1,681	1,258	74.8%

##### 令和3年

対象	回答者	配布数	回収数	回答率
こども園	家族	372	279	75.0%
小学5年生	家族	1,056	640	60.6%
中学2年生	〃	1,056	640	60.6%
高校2年生	生徒	236	228	96.6%
市民	市民	300	80	26.7%
合計		1,592	948	59.5%

#### 〈調査内容〉

- I 回答者について
- II 食育について
- III 食生活について
- IV 健康について
- V 食文化について
- VI 食の安全について
- VII 環境について
- VIII 「新城らしさ」について

〈数値目標における達成状況(第3次計画)〉

食育を効果的に推進するために、第3次計画において数値目標を設定しました。

計画に掲げた数値目標に対する達成状況や市の取組みの状況を踏まえて、第3次計画における評価と課題とします。

数値目標

※平成28年から高校生を含んだ数値

項目		平成20年 (当初)	平成23年	平成28年	目標値 (R3)	令和3年	
食育の認知	1 食育に関心を持っている人の割合	80.1%	86.3%	77.9%	90.0%	79.1%	
	2 食育の意味を知っている人の割合		65.1%	62.2%	90.0%	57.5%	
	3 市で食育を推進していることを知っている人の割合		54.7%	62.9%	90.0%	49.1%	
	4 食育に関心を持っている若い世代の割合 ※4、5			56.6%	70.0%	57.8%	
人づくり	5 朝食を食べていない人の割合	小学5年生 ※1、2	1.3%	2.7%	4.2%	0% (欠食をしない)	4.3%
		中学2年生 ※1、2	3.2%				
		市民	3.5%				
	6 バランスのとれた食事をする人の割合	69.8%	70.5%	67.9%	80.0%	77.6%	
	7 内臓脂肪症候群を認知している人の割合	87.6%	84.3%	78.1%	90.0%	76.9%	
8 自分の適正体重を知っている人の割合	57.7%	64.0%	64.9%	70.0%	70.8%		
9 新城市食育推進計画を知っている人の割合 ※4			8.2%	20.0%	4.1%		
食づくり	10 地産地消(市産市食)の内容を知っている人の割合 ※3	63.6%	69.1%	64.9%	80.0%	64.0%	
	11 学校給食における地場産物を使用する割合(食材数) ※6	18%	市内産19.9%	市内産14.2%	市内産15.0%	市内産9.6%	
	12 食べ残しをしない工夫をする人の割合	50.0%	52.6%	46.4%	70.0%	54.4%	

※1 平成19年度「食生活に関するアンケート」新城市学校保健会ほかによる。

※2 学校のある日についてのアンケート結果による。

※3 平成28年からは、市産市食の内容を知っている人の割合を調査した。

※4 第3次計画より追加した項目

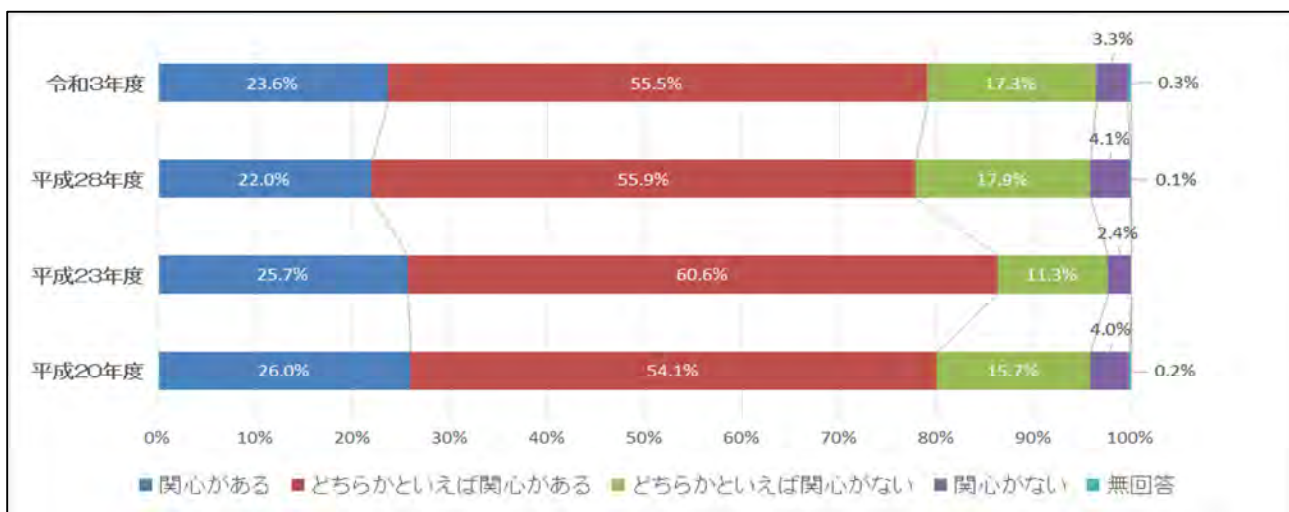
※5 若い世代とは、10代と20代の男女のこととした。

※6 地場産物調査の結果による。

数値目標の各項目ごとに比較できるようグラフにまとめました。平成28年度からは高校生も調査の対象としています。

## 数値目標 1

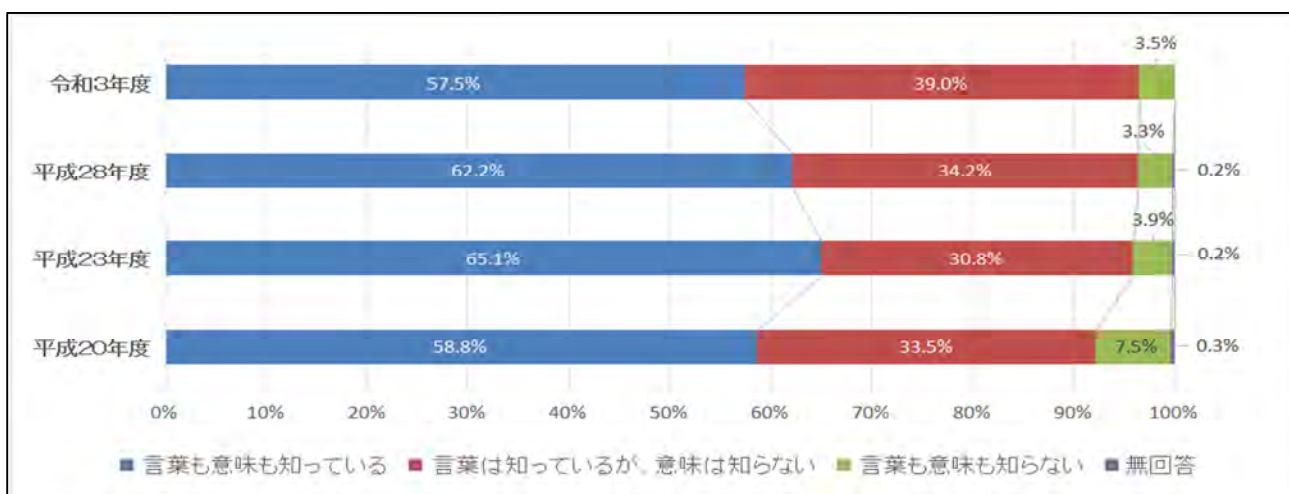
### 食育に関心がある人の割合



食育に関心がある、どちらかといえば関心があると回答した人は、合わせて79.1%でした。全体の割合をみても、前回の調査から大きな変化はみられませんでした。

## 数値目標 2

### 食育の意味を知っている人の割合



食育の言葉も意味も知っていると回答した人の割合は、57.5%と前回の調査より減少していることがわかりました。

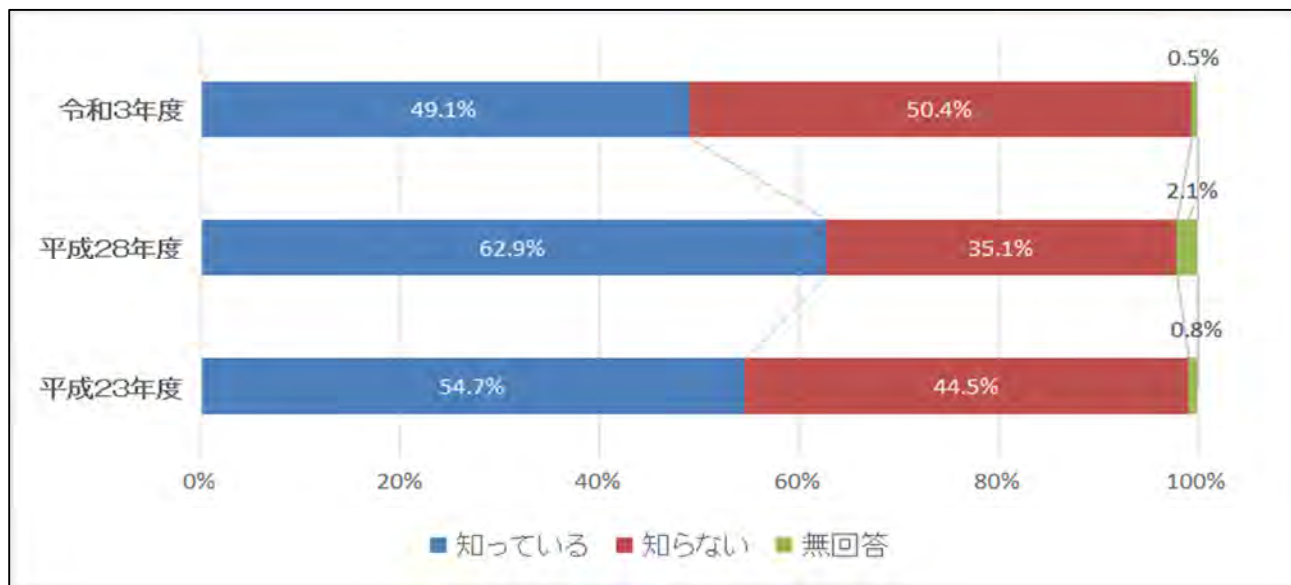
一方で、言葉は知っているが、意味は知らないと回答した人の割合は、39.0%と増加していることがわかりました。

## 食育とは？

食育とは、生きる上での基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけられています。また、さまざまな経験を通して、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活ができる人間を育てることです。

### 数値目標3

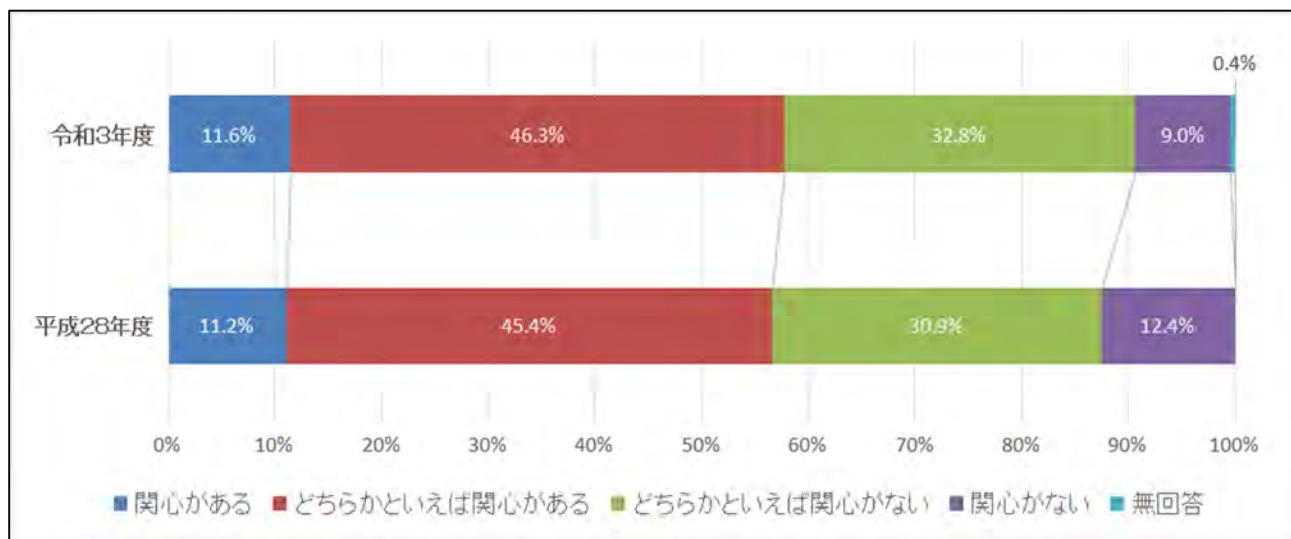
#### 市で食育を推進していることを知っている人の割合



市で食育を推進していることを知っていると回答した人が、49.1%と半分を下回る結果となりました。大幅に減少した一因としては、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、イベントの中止等により、推進活動ができなかったことにあると考えます。

### 数値目標4

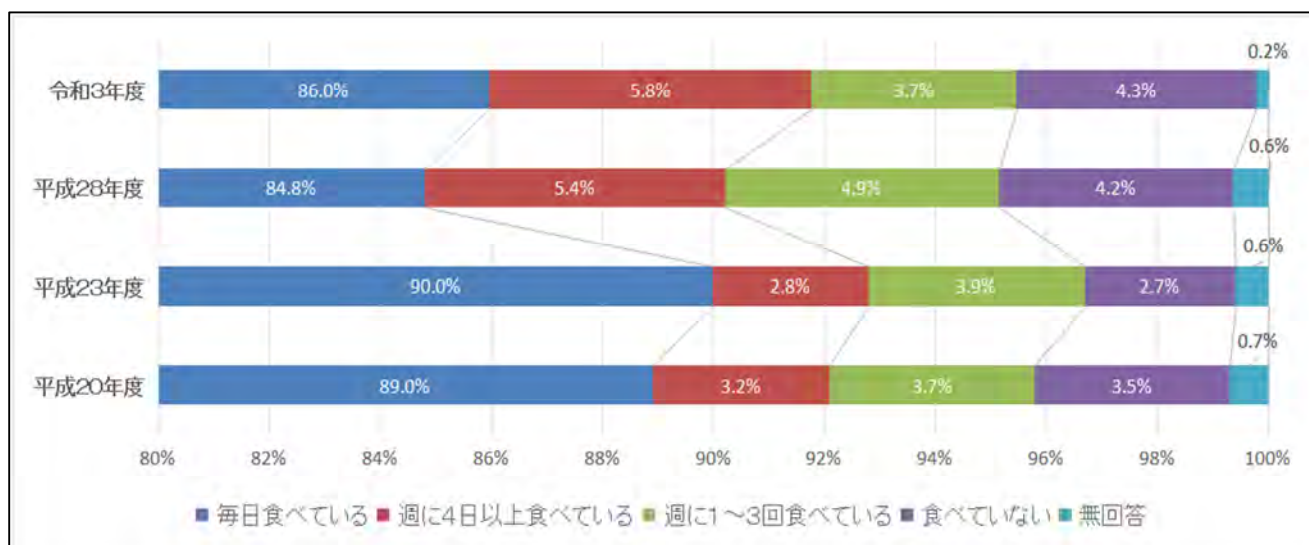
#### 食育に関心を持っている若い世代の割合



若い世代とは、10代と20代の男女のことを指しています。全体の割合をみても、前回の調査から大きな変化はみられなかったため、引き続き若い世代への食育推進をしていく必要があることがわかりました。

## 数値目標5

### 朝食を欠食する人の割合

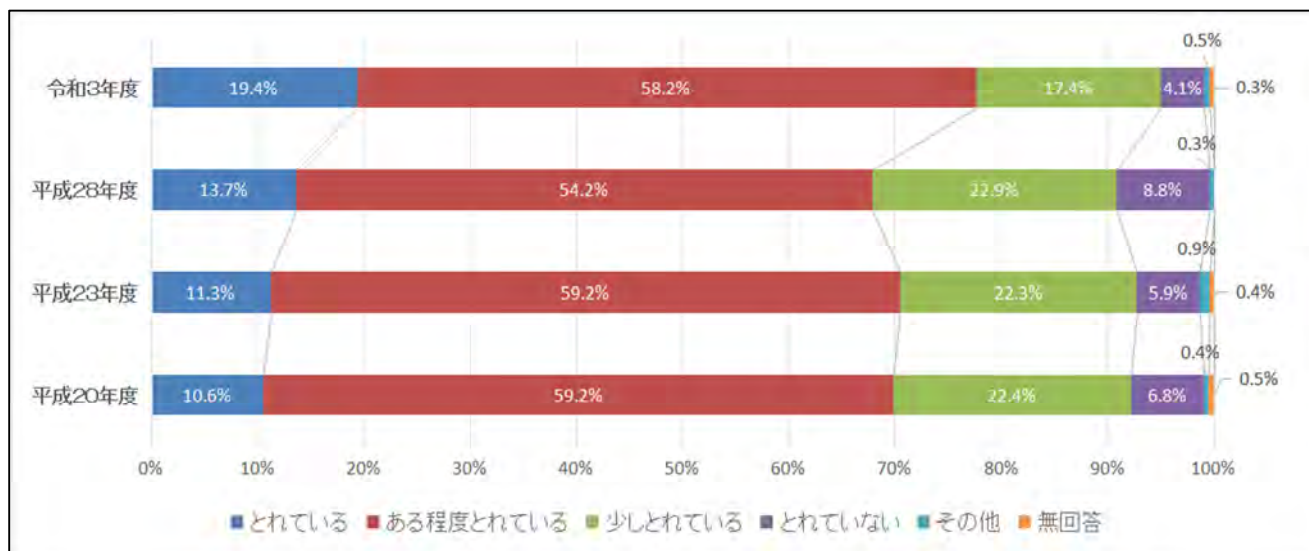


朝食を毎日食べていると回答した人は若干増加しているものの、食べていないと回答している人の割合はほぼ変わらないことがわかりました。

また、食べていないと回答した人に理由を聞いたところ、「時間がないから」が最も多く、続いて「食欲がないから」という結果となりました。

## 数値目標6

### バランスのとれた食事をする人の割合



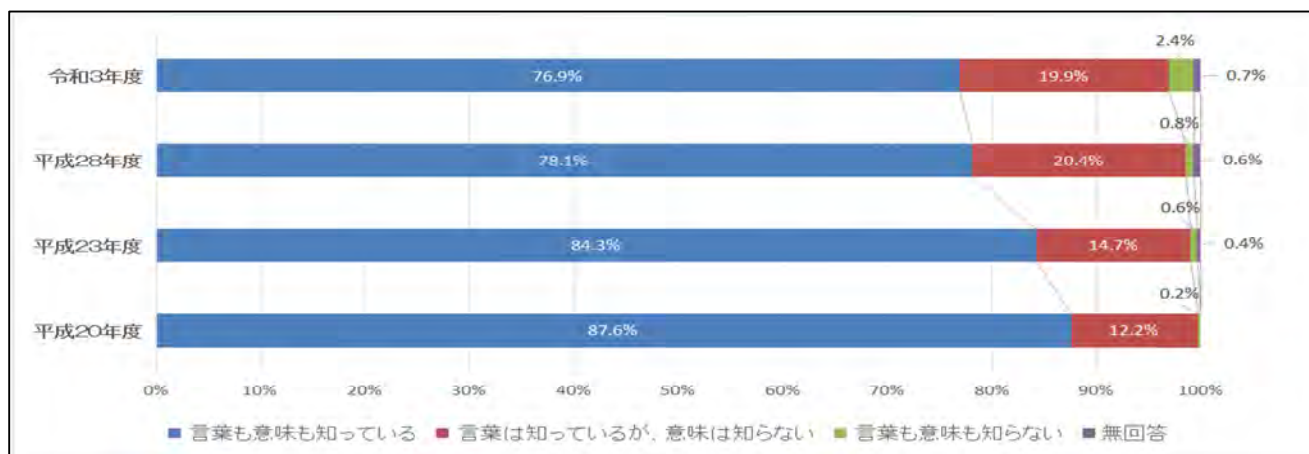
バランスがとれていると回答した人が、19.4%と過去の調査と比較すると最も多い割合となり、ある程度とれていると回答した人の割合と合わせると、77.6%となりました。

その他と回答した人の中には、「わからない」、「とっているつもりだが、自信がない」という意見がありました。



## 数値目標7

### 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）を認知している人の割合



言葉も意味も知っている人の割合が、減少傾向にあることがわかりました。

一方で、言葉も意味も知らないと回答した人が2.4%と前回の調査より増加していることから、言葉そのものを聞く機会が少なくなってしまうのではないかと推測しました。

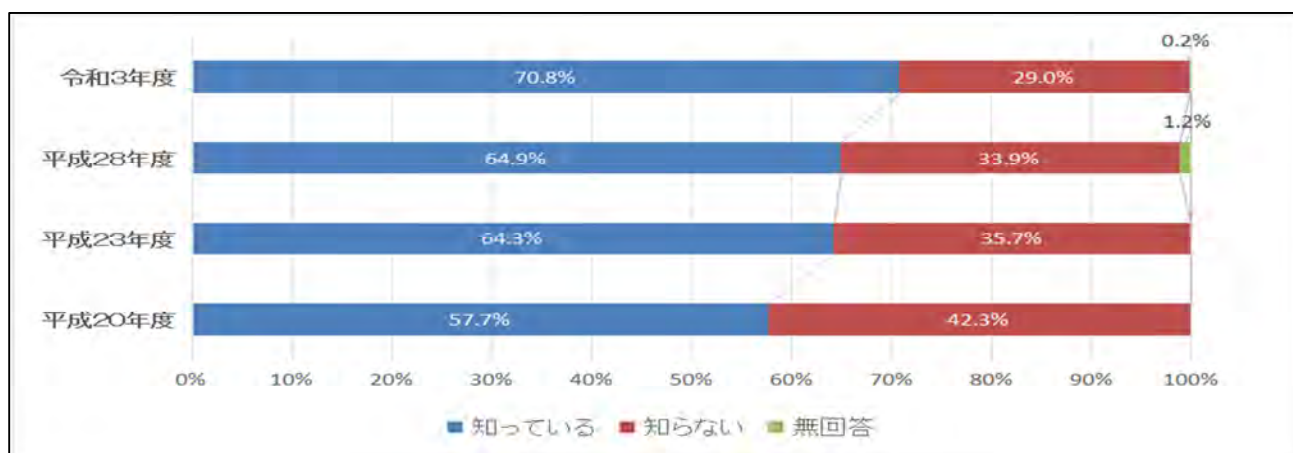
### 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）とは？

内臓脂肪症候群とは、内臓脂肪による「肥満」の人が、「血压」「コレステロール」「血糖値」に異常がある状態のことを言い、通称「メタボ」とも呼ばれています。

どのくらいの内臓脂肪を溜め込むと良くないかというと、へそまわりの径が男性85センチ以上、女性90センチ以上とされています。

## 数値目標8

### 自分の適正体重（BMI）を知っている人の割合



自分の適正体重を知っている人が70.8%となり、目標値である70%に到達しました。

知っていると回答した人の割合は、平成20年度から増加傾向にあり、自分の適性体重を気にしている人が増えてきていることがわかりました。

## 適正体重 (BMI) とは？

適正体重 (BMI) とは、統計的に最も病気にかかりにくいとされる BMI 22 を基準とし、下の式で算出される値です。

例) 身長が 170 cm の人の適正体重は・・・

$$\text{BMI} (=22) \times 1.70 (\text{m}) \times 1.70 (\text{m}) = 63.6 \text{ kg}$$

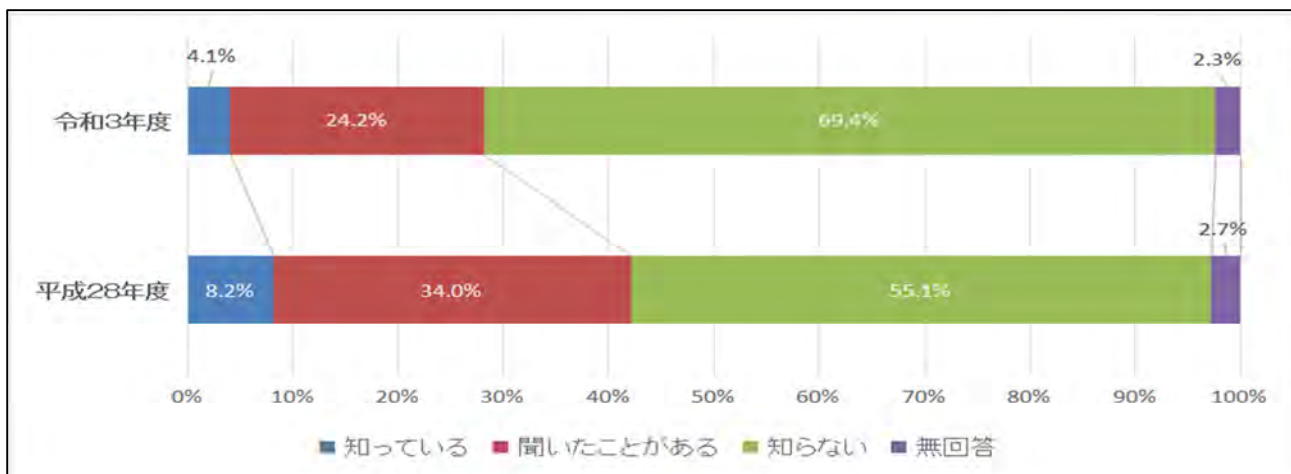
また、自分の体重と身長から BMI を計算し、肥満度を知ることができます。

$$\text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)} = \text{BMI}$$

判定	BMI
やせ	18.5 未満
普通	18.5～25 未満
肥満	25 以上

## 数値目標 9

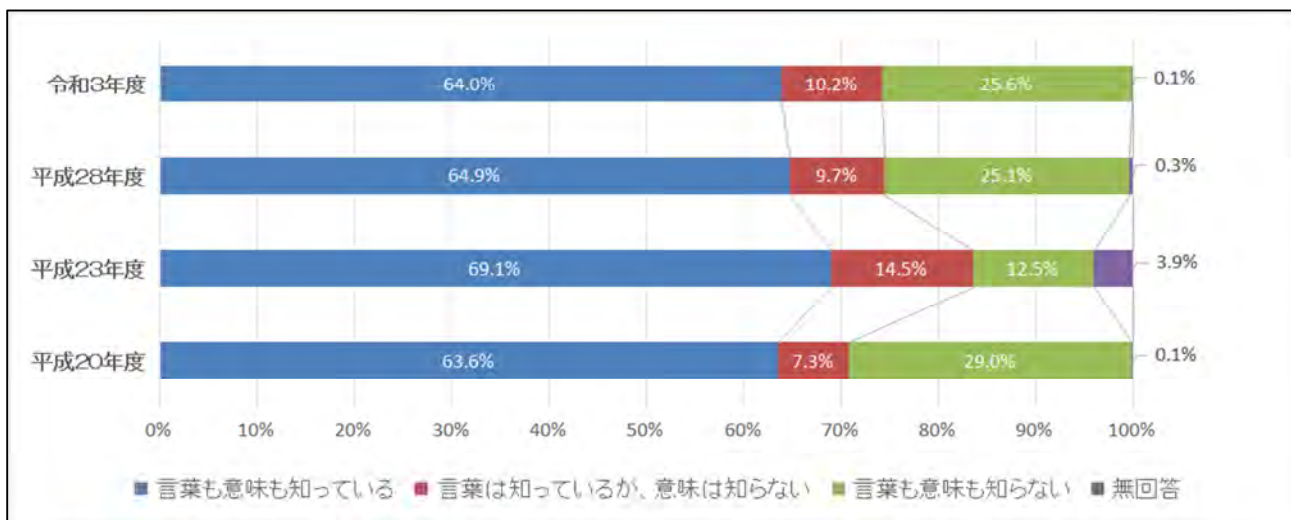
### 新城市食育推進計画を知っている人の割合



計画を知っていると回答した人は 4.1% で前回の調査の半分となりました。

## 数値目標 10

### 市産市食の内容を知っている人の割合



市産市食の内容を知っている人の割合は、前回の調査からほとんど変化がみられませんでした。

## 市産市食とは？

市産市食とは、市内で作られた農畜産物を、市内で食べることを言います。

旬な食材は身体にいいといわれており、生産者の顔が見えるので、安心・安全な食品を消費することができます。また、食料の輸送距離が短くなり環境にも優しいのです。

### 数値目標 1 1

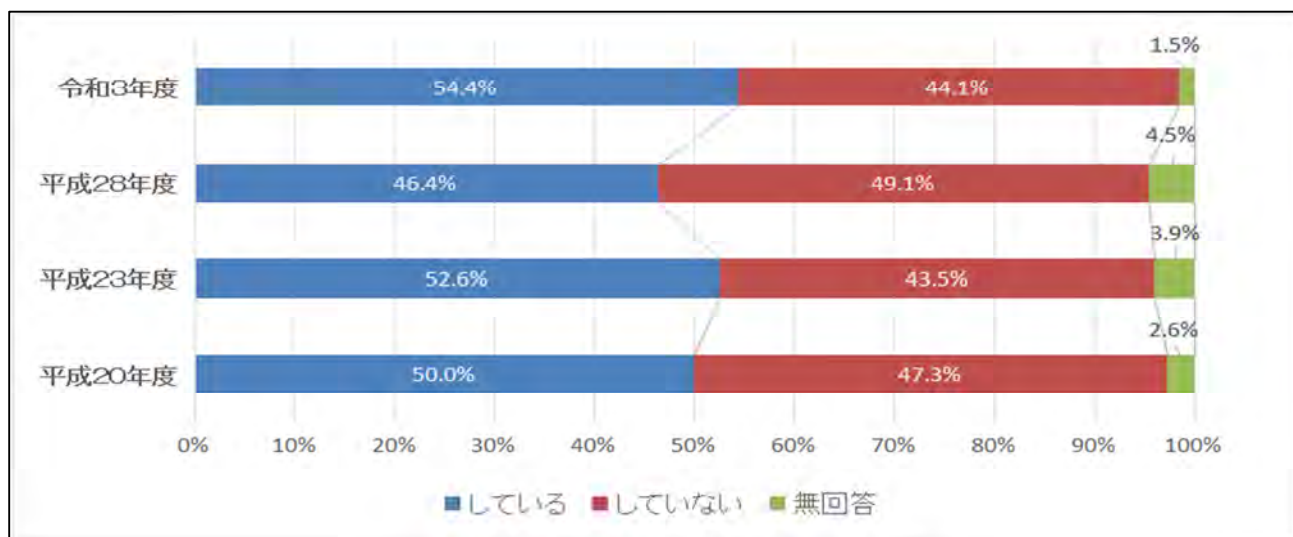
#### 学校給食における地場産物を使用する割合



学校給食での地場産物の利用率は平成23年度以降減少し続けていることが分かりました。

### 数値目標 1 2

#### 食べ残しをしない工夫をする人の割合



食べ残しをしていると回答した人は54.4%と、これまでで最も多い割合となりました。

また、どのように工夫しているのか聞いたところ、「食べきれぬ量だけ作る」、「残ったらリメイクして翌日食べる」という声が多くありました。



## (2) 第3次計画期間中の取組

本計画は市民が自らの意志で取組み、市民が主役でなければなりません。食の大切さを知ってもらい、市民一人ひとりが自ら実践していけるような体制づくりを目指し、料理教室や講演会等のイベント、啓発活動を行ってきました。食育が浸透するためには関係団体から個人への働きかけが有効であるとの考えから、関係団体や行政のつながりを強くすることを意識し、計画の重点でもある「つながり」を基本に推進をしてきました。

啓発や推進については、新城市食育推進協議会で協議・実施しました。

### JA まつりへの出展

コープあいちと愛知東農協共催のイベント「山と水と緑の協同組合まつり」において、毎年食育推進協議会としてブースを出展し、地元の米粉を活用した米粉麺、米粉ピザの試食や食育推進キャラクターパネルや塗り絵を実施し、食育のPRを行いました。



▲平成31年度JAまつりでの試食。米粉麺（左）、米粉ピザ（右）

### 料理教室の開催

食文化の保護・継承の取組として、令和2年度から国の食料産業・6次産業化交付金を活用し、市内小中学校を対象に親子和食調理講習会を開催しました。

また、市民を対象として郷土料理や行事食をテーマにした料理教室を開催しました。



▲お節句料理がテーマの市民対象料理教室の様子

### 「地産地消の日」の設定

令和3年度からは毎月19日前後を「地産地消の日」とし、市内小中学校の給食に市内産農畜産物の活用を進めています。



### 広報誌へのレシピ掲載

市広報紙「ほのか」において、農村輝きネット・しんしろの協力を得て、旬の食材を使ったレシピを毎月掲載しています。

また、市内産農畜産物について、豆知識として特徴などを紹介しています。



## 2-2 第3次計画期間中に見えた現状と新たな課題

令和3年度にアンケートを実施した結果、食育の意味を知っている人や、市で食育を推進していることを知っている人の割合は減少しました。

また、食育に関心を持っている人の割合、バランスのとれた食事をする人の割合、自分の適性体重を知っている人の割合は増加していますので、食への関心や、健康志向が高まっていることが現れていると推測されます。

このようなことにより、食への関心は高まっていますが、食育の意味を知らない人が増加していますので、食の大切さを様々な施策を通じて発信していくことが重要です。

「市で食育を推進していることを知っていますか」という問に対して、知っていると回答した方の中で、学校やこども園を通じて知った人が多数でしたので、今後も学校やこども園を通じて、家庭等への啓発に重点をおいていくと同時に、すべての市民を対象に食育を進めたほうが良いという意見も多くありましたので、イベントや各種媒体を通じて、広く周知を図る必要があります。

市で食育を推進していることは知っていても、本市に食育推進計画があることを知っている人はまだまだ少数です。計画自体の認知度が低いですが、計画に基づき、目的を達成するために施策を実施していることを市民にもっと知ってもらい、計画の認知度を高めていくことが重要です。

朝食を食べていない人の割合や栄養バランスのとれた食事をする人の割合など、多くが目標値に達しておらず、健全な食生活の実践までには至っていない人が多いのが現状です。

学校給食においても、地場産物を使用する割合が目標値から大きく下がっていますので、地場産物の供給体制の構築について、検討を図り、使用率を高めていくことも重要です。

和食が平成25年からユネスコの無形文化遺産に登録され、和食への関心が高まっています。和食を通じた地場産物の利用拡大や郷土料理などを次世代に繋いでいくことが重要です。

以上のこととアンケート調査などの現状から、次の点が今後の食育推進にあたっての課題と考えます。

課題1 健全な食生活の実践

課題2 食づくりからなる若い世代への食文化の継承

課題3 実行性のある普及啓発及び情報発信

## 第3章 基本的な考え方

### 3-1 基本目標と施策

食育とは、生きる上での基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけられています。また、さまざまな経験を通して、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活ができる人間を育てることであります。

社会経済情勢がめまぐるしく変化し、日々忙しい生活を送る中で、人々は、毎日の「食」の大切さを忘れがちです。

あらゆる世代の市民が、健全な食生活を送り、心身ともに健康に暮らすために、その重要性を周知するとともに、これまでの取り組みを継続しつつ、新たな手法も取り入れながら食育を推進する必要があります。

第2章で見てきた課題及び食育を推進するために、3つの基本目標を掲げ、具体的な施策を実施します。

#### 基本目標1 健全な食生活による心身の健康増進

食は食えることや身体の成長のためだけではありません。食を通じてさまざまな経験をし、食べることの楽しさ、食に対する感謝の気持ちを育むことは豊かな心を育みます。

また、生活様式の多様化とともに、食生活も飽食の時代となり、肥満や生活習慣病などの問題が顕著になっています。

健全な食生活の実現には、食に関する知識や食を選択する力が必要です。

地域の特性を生かした食育を推進するため、国の「食事バランスガイド」等を参考に望ましい食生活の普及・啓発の強化を図る必要があります。

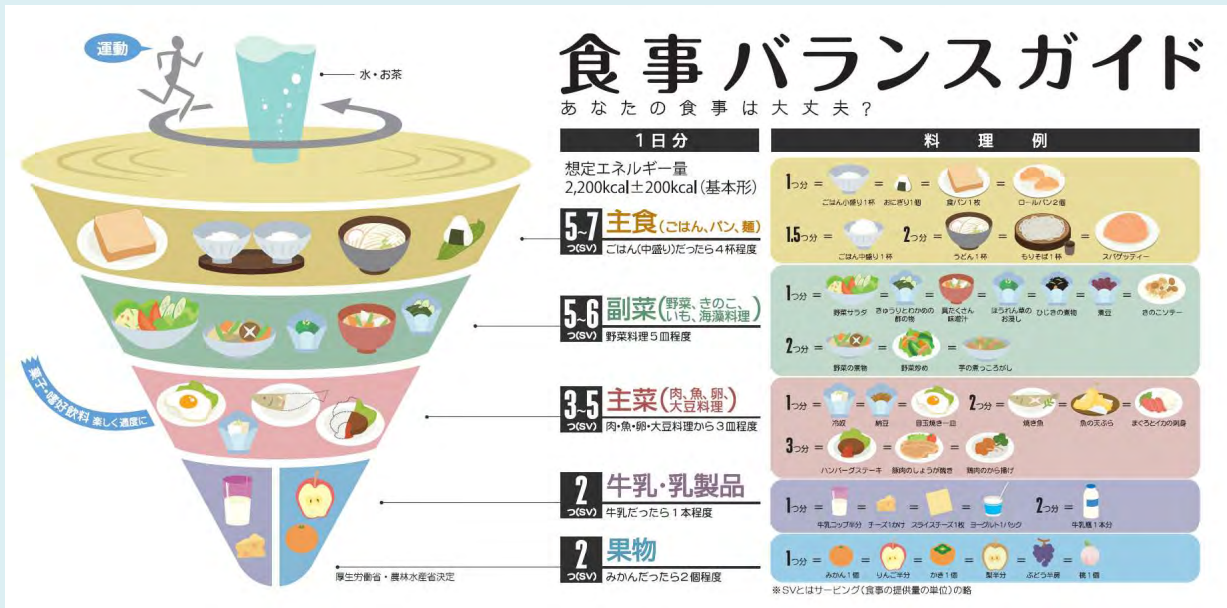
##### 具体的な施策

- 1 望ましい食生活の推進
- 2 健康な身体づくりの推進

## 食事バランスガイドとは？

「食事バランスガイド」とは、1日に「何を」「どれだけ」食べたら良いか、コマをイメージしたイラストで示したものです。食事を「主食」、「副菜」、「主菜」、「牛乳・乳製品」、「果物」の5つの料理グループに分け、それぞれ1日に必要な量を示してあります。

バランス良く食べて、運動するとコマは安定して回りますが、食事のバランスが悪いとコマは倒れてしまいます。バランスのとれた食事に心がけることが重要です。



## 基本目標2 次世代へつなぐ食育の推進

食は学ぶだけでなく、伝えていくことも大切です。地域や家庭で受け継がれている郷土料理や伝統料理をはじめ、食事のマナーや作法を子どもや若い世代に伝えていくことが必要です。

また、食農教育という言葉があるように、食を学習するには農の学習も必要です。農業の体験や郷土料理づくりを実際に体験することで、地域を知り、人を知り、食べることの大切さや郷土愛を育むことにつながります。

家庭や学校・こども園・地域などが一体となって、世代から世代へ、地域から地域へと広がる食育の推進を図る必要があります。

### 具体的な施策

- 1 食を通じた交流や学びの推進
- 2 食文化の継承



### 基本目標3 新しい生活様式に対応した食育の推進

新型コロナウイルス感染症拡大により、私たちの生活様式は大きく変化しました。職場や学校ではリモートワークやオンライン授業などデジタル化が進んでいます。

食の分野においては、これまで対面で行っていたイベントや外食の機会が減少したことに伴い、内食需要が高まっています。こうした社会の変化の中で食育も新たな生活様式に対応した推進の方法が求められています。

また、昨今話題となっているSDGsの達成に貢献する食育の取組も推進していく必要があります。

#### 具体的な施策

- 1 新しい生活様式に対応した食育の普及啓発と情報発信
- 2 環境にやさしい食生活の推進

### SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは？

SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、令和12年までに達成するために掲げた国際目標です。

SDGsは、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓い、持続可能な世界を実現するための目標とのターゲットから構成されています。このSDGsを達成するための取り組みが、日本を含め各国で進められており、地方自治体においても、各種計画の策定や方針の決定にあたっては、SDGsの理念を最大限反映させることが重要となっています。



## 3-2 主な取組

### 基本目標1 健全な食生活による心身の健康増進

#### ★具体的な施策1 望ましい食生活の推進



##### 【主な取組】

食に関する知識や理解を深め、栄養バランスのとれた食事や規則正しい食生活が実践できるよう、望ましい食生活を推進します。

##### ●取組内容

- ・栄養バランスのとれた食事の普及啓発
- ・市内産農畜産物を活用したメニューの情報発信

#### ★具体的な施策2 健康な身体づくりの推進



##### 【主な取組】

生涯にわたって健康な身体を保つため、規則正しい食生活の実践や生活習慣病の予防と改善を図り、健康な身体づくりを推進します。

##### ●取組内容

- ・野菜を食べることによる健康づくり
- ・早寝早起き朝ごはんの推進

### 基本目標2 次世代へつなぐ食育の推進

#### ★具体的な施策1 食を通じた交流や学びの推進



##### 【主な取組】

家族や友人など様々な人と食を楽しむことは豊かな心を育み、食を学ぶことは感謝の心を育むことに繋がります。共食や食に関する学習機会、また家庭、学校、地域を通じて、豊かな心と感謝の心を育む取組を推進します。

##### ●取組内容

- ・食農教育の推進
- ・親子や地域での食を通じた交流機会の創出

## ★具体的な施策2 食文化の継承



### 【主な取組】

市内の郷土料理や伝統料理、行事食などを次世代に伝承していくため、食文化を継承する取組を推進します。

#### ●取組内容

- ・和食料理教室開催による和食文化の継承
- ・郷土料理や伝統料理などの普及啓発の実施

## 基本目標3 新しい生活様式に対応した食育の推進

### ★具体的な施策1 新しい生活様式に対応した食育の普及啓発と情報発信



### 【主な取組】

コロナ禍の中、食の大切さや楽しさを実感するため、感染症対策に留意した上で、コミュニケーションを図る方法を模索し、食育を推進します。

#### ●取組内容

- ・感染回避を考慮したイベント、講習会の実施
- ・オンラインによる料理教室、料理動画の配信

### ★具体的な施策2 環境にやさしい食生活の推進



### 【主な取組】

SDGsで掲げる持続可能な社会構築に向けて、食品の無駄や廃棄を減少させるため、地産地消を推進し、環境に配慮した食生活を推進します。

また、地産地消を推進するために、学校給食での地産地消率の向上や「地元農家を応援する店（地産地消推奨店）」の登録を促進し、市内飲食店等での市内産農畜産物の利用拡大を図ります。

#### ●取組内容

- ・フードロス削減を目指した取組の実践
- ・地産地消の推進（フードマイレージの削減）

## フードマイレージとは？

フードマイレージとは、「食料(=フード)の生産地から消費地までの輸送距離(=マイルズ)」という意味です。

重量×距離(トン・キロメートル)で表します。食品の生産地と消費地が近ければ、フードマイレージは小さくなり、遠くから食品を運んでくると大きくなります。

輸送距離が短くなることで、石油などの燃料や排気ガスの削減につながり、延いては地球環境への負荷の低減にもつながります。

地産地消が望ましいというのは、このことから言えます。



## 第4章 推進に向けて

### 4-1 行動指針

食育を具体的に推進していくためには、個人・家庭、こども園・学校、地域・職域、行政が互いに連携・協力していくことが大切です。

基本目標ごとの取組について、どの分野で取り組んでいくかを明確にし、数値目標を達成するために食育を推進していきます。

#### 基本目標1 健全な食生活による心身の健康増進

取組	取組場所			
	個人・家庭	こども園・学校	地域・職域	行政
栄養バランスのとれた食事の普及啓発	○	○	○	○（農業課、健康課）
市内産農畜産物を活用したメニューなどの情報発信	○	○	○	○（農業課）
野菜を食べることによる健康づくり	○	○	○	○（農業課、健康課）
早寝早起き朝ごはんの推進	○	○	○	○（農業課、健康課）
自分の適正体重の把握、内臓脂肪候群の認知	○	○	○	○（健康課）
生活習慣病予防のための食習慣づくりの促進	○	○	○	○（健康課）
食事バランスガイドを意識した望ましい食生活の実践	○			○（健康課）
健康教室の開催	○		○	○（健康課、市民病院総務企画課）
スポーツ活動・教室の推進	○		○	○（生涯共育課）
高齢者の低栄養予防の啓発	○			○（高齢者支援課）
ミニデイサービスの実施	○			○（高齢者支援課）
食の自立支援事業	○			○（高齢者支援課）

#### 基本目標2 次世代へつなぐ食育の推進

取組	取組場所			
	個人・家庭	こども園・学校	地域・職域	行政
食農教育の推進、農業体験等実施のための支援	○	○		○（農業課、学校教育課）
親子ふれあい教室などの家庭教育、生涯学習の推進による交流機会の創出	○		○	○（農業課、生涯共育課）
親子和食料理教室開催による和食文化の継承	○	○	○	○（農業課）
郷土料理や伝統料理などの普及啓発の実施	○	○	○	○（農業課）
食を通じた青少年の健全育成の推進	○	○	○	○（農業課、生涯共育課）
新しい生活様式を踏まえた共食の推進	○		○	○（農業課、健康課）

### 基本目標3 新しい生活様式に対応した食育の推進

取 組	取組場所			
	個人・家庭	子ども園・学校	地域・職域	行政
感染回避を考慮したイベントや講習会の実施	○	○	○	○（農業課）
オンラインによる料理教室、料理動画の配信	○	○	○	○（農業課）
フードロス削減に向けた市民への情報提供	○	○	○	○（農業課、生活環境課）
フードバンク活用の促進	○	○	○	○（福祉課、子ども未来課）
生ごみ発生抑制の取組の推進	○	○	○	○（農業課、生活環境課）
学校給食における地産地消の推進		○	○	○（農業課、教育総務課）
学校給食における市内産農畜産物の供給体制の構築		○	○	○（農業課、教育総務課）
子ども園給食における地産地消の推進		○	○	○（農業課、子ども未来課）
子ども園給食における市内産農畜産物の供給体制の構築		○	○	○（農業課、子ども未来課）
社員食堂や飲食店での地産地消の推進			○	○（農業課）
食べ残し抑制のための周知活動	○	○	○	○（農業課、健康課）
化学肥料や農薬の使用削減の推進	○		○	○（農業課）
環境に配慮した食に関する情報提供	○	○	○	○（農業課、環境政策課）
食育推進キャラクターの紹介、啓発	○	○	○	○（農業課）
市内産農畜産物を活用した加工品の開発	○	○	○	○（農業課）
旬の食材や献立について情報提供	○	○	○	○（農業課）
食育の推進内容の情報発信や啓発活動の実施	○	○	○	○（農業課）
新城市食育推進計画の周知	○	○	○	○（農業課）

### 共食とは？

共食とは、家族や友達、同僚など「誰かと一緒に食事をする事」です。

誰かと一緒に食事をする事で、コミュニケーションを図り楽しく食べたり、食事のマナーや文化を学ぶ機会にもなります。

## 4-2 目標指針

本計画を効果的に推進するために、数値目標を設定します。

第3次計画での数値目標の達成状況を把握・評価し、客観的に進捗状況を見ることにより、計画や取組みの見直しに反映させるものです。

この数値目標は、前計画で目標達成できなかった項目に、今回の市民アンケート結果を踏まえて目標にするべき項目を追加しました。

なお、この目標指針は、市民アンケート結果から設定していますので、評価・見直しを行うときには、同様の市民アンケート調査が必要です。

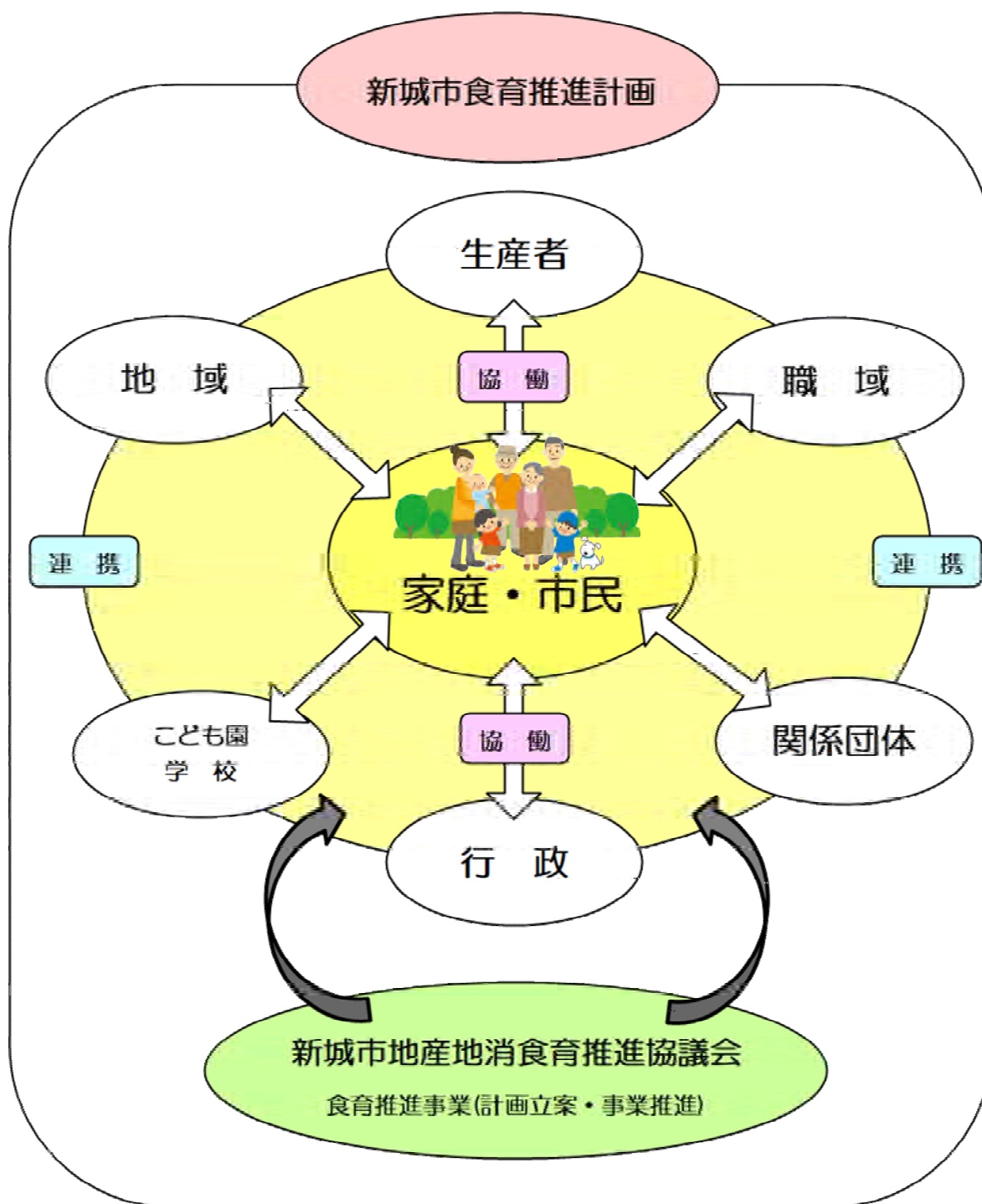
### ☆計画を効果的に推進するため数値目標を掲げて取り組みます☆

		現状(R3)	目標(R8)	効果 (基本目標)
1	朝食を食べていない人の割合	4.3%	0% (欠食をしない)	基本目標1
2	バランスのとれた食事をする人の割合	77.6%	80.0%	基本目標1
3	内臓脂肪症候群を認知している人の割合	76.9%	90.0%	基本目標1
4	自分の適正体重を知っている人の割合	70.8%	75.0%	基本目標1
5	1日3回野菜を食べている人の割合	22.6%	30.0%	基本目標1
6	地域や家庭で受け継がれてきた郷土料理や伝統料理を伝承している人の割合	37.5%	50.0%	基本目標2
7	食育に関心を持っている人の割合	79.1%	90.0%	基本目標3
8	食育に関心を持っている若い世代の割合	57.8%	70.0%	基本目標3
9	食育の意味を知っている人の割合	57.5%	90.0%	基本目標3
10	市で食育を推進していることを知っている人の割合	49.1%	90.0%	基本目標3
11	新城市食育推進計画を知っている人の割合	4.1%	20.0%	基本目標3
12	市産市食の内容を知っている人の割合	64.0%	80.0%	基本目標3
13	学校給食における地場産物を使用する割合（食材数の年平均）	市内産9.6%	市内産15.0%	基本目標3
14	食べ残しをしない工夫をする人の割合	54.4%	70.0%	基本目標3

・若い世代とは、10代と20代の男女のこととする。

### 4-3 推進体制

本計画を柱に新城市地産地消食育推進協議会を置き、家庭及び市民を中心とし、生産者、地域、職域、こども園・学校、関係団体、行政などが一体となった体制で推進していきます。また、協議会で事業を決定・実行していきます。



## 新城市地産地消食育推進協議会委員名簿

## 新城市地産地消食育推進協議会委員

令和4年3月1日現在（敬称略、順不同）

氏名	所属・役職	備考
前澤 このみ	食育推進ボランティア	会長
荻野 紀子	食育推進ボランティア	
鈴木 優子	新城市健康づくり食生活改善協議会	
小山 幸浩	愛知東農業協同組合 組合員課長	
熊谷 浩一	愛知東農業協同組合 企画管理課長	
竹下 あけみ	有限会社つくで手作り村 代表取締役	
前崎 伸周	新城市教育委員会学校教育課 副課長	
松井 美里	新城市立作手小学校 栄養教諭	
白井 光里	新城市健康福祉部健康課 栄養士	
竹下 朱美	新城市健康福祉部こども未来課 参事	
太田 雅世	新城市健康福祉部こども未来課 栄養士	
安藤 映臣	新城市産業振興部農業課長	

## 事務局

長谷川 敬祐	新城市産業振興部農業課 副課長	事務局長
岡田 尚久	新城市産業振興部農業課 農政係長	
中村 朋美	新城市産業振興部農業課 主事	

# 食育基本法の概要

---

## 1. 目的

国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ食育を推進するため、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、現在及び将来にわたる健康で文化的な国民の生活と豊かで活力のある社会の実現に寄与することを目的とする。

## 2. 関係者の責務

- (1) 食育の推進について、国、地方公共団体、教育関係者、農林漁業者、食品関連事業者、国民等の責務を定める。
- (2) 政府は、毎年、国会に食育の推進に関して講じた施策に関する報告書を提出する。

## 3. 食育推進基本計画等

- (1) 食育推進会議は、以下の事項について食育推進基本計画を作成する。
  - ①食育の推進に関する施策についての基本的な方針
  - ②食育の推進の目標に関する事項
  - ③国民等の行う自発的な食育推進活動等の総合的な促進に関する事項
  - ④食育の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項
- (2) 都道府県は都道府県食育推進計画、市町村は市町村食育推進計画を作成するよう努める。

## 4. 基本的施策

- (1) 家庭における食育の推進
- (2) 学校、保育所等における食育の推進
- (3) 地域における食生活の改善のための取組の推進
- (4) 食育推進運動の展開
- (5) 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等
- (6) 食文化の継承のための活動への支援等
- (7) 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進

## 5. 食育推進会議

- (1) 農林水産省に食育推進会議を置き、会長（農林水産大臣）及び委員（関係大臣、有識者）25人以内で組織する。
- (2) 都道府県は、都道府県食育推進会議、市町村は、市町村食育推進会議を置くことができる。

## 食育推進キャラクター紹介

### 『お食べん 武将隊!』

食育や地産地消を親しみやすく、分かりやすくするために、地元農産物をモチーフに作成しました。長篠・設楽原の戦いの地でも知られることから地元農産物を武将に見立てて、日々食の安全・安心を守るように戦います。

ぬりえ、シール、スタンプ、のぼり旗、ステッカーなどを作成しましたが、市民の方が誰でも利用できるように利用規程を作成し、活躍しています。

## お食べん武将隊!



#### キャラクター「1. こめのすけ」

『お食べん 武将隊!』のリーダー。休日はメダカを眺めて暮らしているが、米寿まで生きる。

#### 農産物「米」

栽培されている品種は、ミネアサヒ、あいちのかおり、コシヒカリが80%を占める。

#### キャラクター「2. ちゃばのしん」

人当たりがよく、癒し系。誰に対しても合うので、欠かせない存在。

#### 農産物「お茶」

普通せん茶の生産量は県内1位。新城の地形は、旨味と渋みが調和したせん茶栽培に適している。



#### キャラクター「3. やなまる」

さといも界では由緒正しいお家柄。粘り強く、コツコツ努力する。

#### 農産物「八名丸さといも」

あいちの伝統野菜に選定され【八名丸】として商標登録されている。丸い形と粘りが強いことが特徴。



#### キャラクター「4. なすぞう」

精霊馬に乗っていて、マスコットの存在。  
一富士、二鷹、三茄子からくる、縁起がいい名前。



#### 農産物「なす」

新城では、夏秋なすがたくさん出荷されている。



#### キャラクター「5. とろろまる」

武闘派で、知る人ぞ知る刀工の作の名刀「夢とろろ丸」が武器。粘着質な性格。

#### 農産物「自然薯」

作手産のゆめとろろは、粘りが強くて香り、食味に優れ絶品。

#### キャラクター「6. とまたろう」

ハヤシライスが大好きな大食い。趣味はポエムを作ること。最近なすぞうと親戚だと気づいた。

#### 農産物「夏秋トマト」

標高 550m で栽培されている高原トマト。旨みが凝縮され、甘味と酸味のバランスが良いことが特徴。



#### キャラクター「7. ベにひめ」

キュートな女の子。いちごのついたヤリに刺された相手は、恋する甘酸っぱい気持ちになる。

#### 農産物「いちご」

主に紅ほっぺ、ゆめのかが栽培されている。紅ほっぺは大玉でジューシー、ゆめのかは果皮が固く日持ちする。

#### キャラクター「8. ふさひめ」

ぶどうだけに武道家。ボーイッシュな女の子。得意技は手にしているぶどうジュースを飲んで酔拳。

#### 農産物「巨峰」

ぶどうの王様と言われる種なし巨峰発祥の地と言われる。とても甘く、品質が良い。







### キャラクター「9. かきえもん」

葉巻代わりにいつも渋柿を手にしているチョイ悪オヤジ。雑誌の表紙を飾ることを夢めている。

#### 農産物「柿」

新城地区を中心に、品種は主に「次郎柿」「富有柿」が栽培され、日本各地に出荷されている。

### キャラクター「10. うめちよ」

前髪を垂らし、武将の割には線の細いイケメン。いつも周りには梅の花が咲き誇っている。

#### 農産物「梅」

鳳来地区を中心に栽培されている。青梅のほか、加工品として梅干やジャムとしても販売されている。



### キャラクター「11. えーごろう」

熱血な性格。みるくひめとは契りを交わした兄弟となり耳標を分け合っている。とても、とても熱い。

#### 農産物「和牛」

県内一の和牛繁殖産地で、肥育された鳳来牛は鳳来地区の特産品。A5 ランクの肉が最高級。

### キャラクター「12. みらくひめ」

ツンデレ系の女の子。大きな牛乳ビンを抱えて大好きな牛乳をみんなに飲んでもらいたいと願っている。

#### 農産物「牛乳」

作手地区を中心に飼養されている。毎日搾乳し、生乳としてたくさん出荷されている。



# 食育に関する市民アンケート結果

令和3年11月～12月 実施

## 〈 アンケート実施内容 〉

### 目的

第4次新城市食育推進計画の策定にあたり、市民の食生活の現状や意識を把握し計画策定の基本資料とするため

### 調査対象

市内こども園の5歳児、小学5年生、中学2年生がお子さんがお見えになる家庭、新城有教館高等学校2年生の生徒、無作為に抽出した市民  
※こども園、学校は各機関を通じて、無作為抽出の市民は郵送で配布・回収

### 調査内容

- I 回答者について
- II 食育について
- III 食生活について
- IV 健康について
- V 食文化について
- VI 食の安全について
- VII 環境について
- VIII 「新城らしさ」について

### 回答率

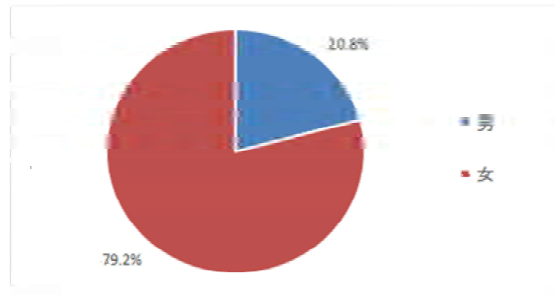
対象	回答者	配布数	回収数	回収率
こども園5歳児	家族	298	640	60.6%
小学5年生		360		
中学2年生		391		
高校2年生	生徒	236	228	96.6%
市民	市民	300	80	26.7%
合計		1592	948	59.5%

## 〈 アンケート結果の内容 〉

### I 回答者について

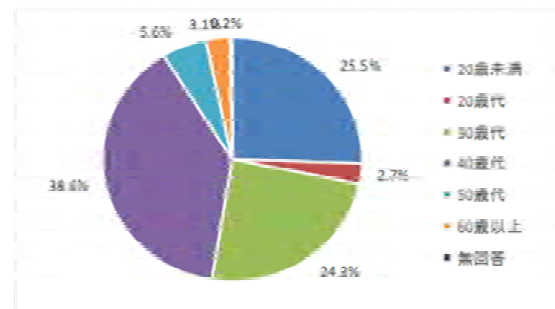
【問1】あなたの性別はどちらですか。

	回答数	回答率
1 男	197	20.8%
2 女	751	79.2%
計	948	



【問2】あなたの年齢はおいくつですか。

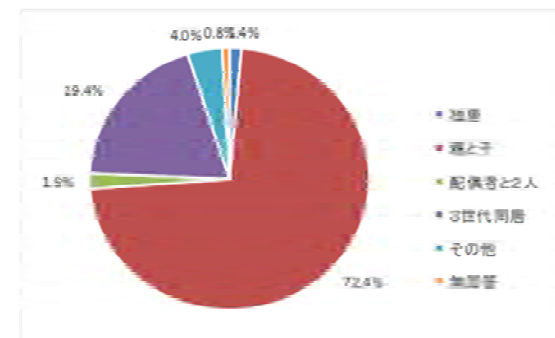
	回答数	回答率
1 20歳未満	242	25.5%
2 20歳代	26	2.7%
3 30歳代	230	24.3%
4 40歳代	366	38.6%
5 50歳代	53	5.6%
6 60歳以上	29	3.1%
無回答	2	0.2%
計	948	



【問3】あなたの家族構成と人数を教えてください。(高校生除く)

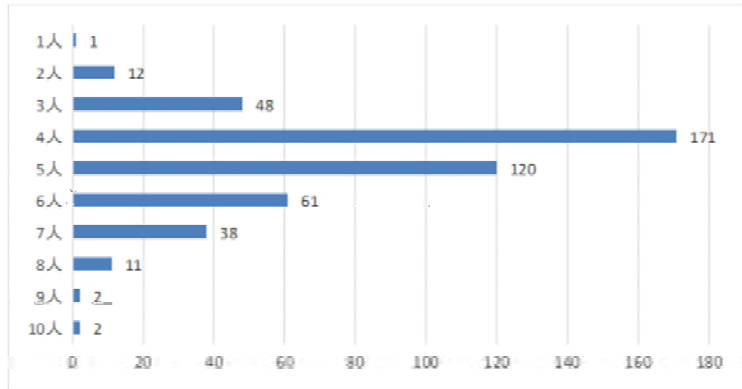
### 家族構成

	回答数	回答率
1 独居	10	1.4%
2 親と子	521	72.4%
3 配偶者と2人	14	1.9%
4 3世代同居	140	19.4%
5 その他	29	4.0%
無回答	6	0.8%
計	720	



家族の人数

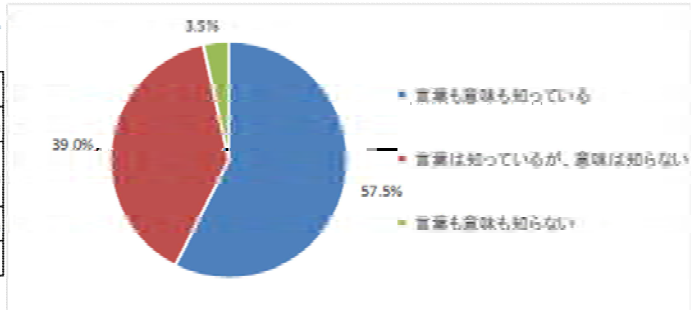
	回答数
1人	1
2人	12
3人	48
4人	171
5人	120
6人	61
7人	38
8人	11
9人	2
10人	2
計	466



II 食育について

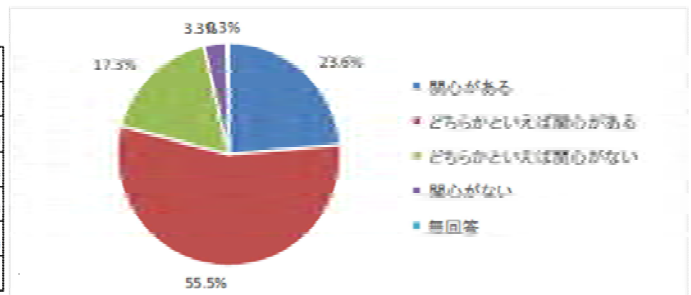
【問4】あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていますか。

	回答数	回答率
1 言葉も意味も知っている	545	57.5%
2 言葉は知っているが、意味は知らない	370	39.0%
3 言葉も意味も知らない	33	3.5%
計	948	



【問5】あなたは、「食育」に関心がありますか。

	回答数	回答率
1 関心がある	224	23.6%
2 どちらかといえば関心がある	526	55.5%
3 どちらかといえば関心がない	164	17.3%
4 関心がない	31	3.3%
無回答	3	0.3%
計	948	



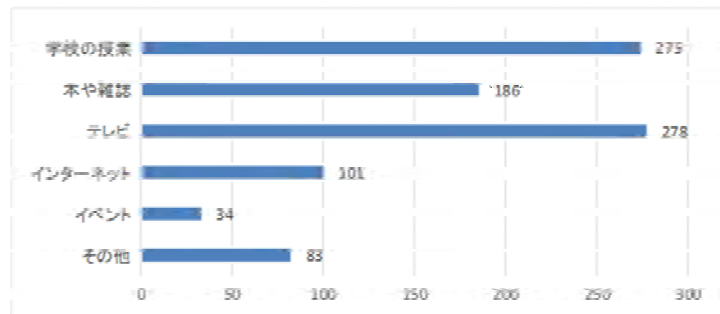
【問6】あなたが、「食育」に関心がある理由はなんですか。(複数回答可)

	回答数
1 家族での食事や会話が必要だから	305
2 正しいマナー(食事の挨拶、箸の持ち方、姿勢等)の習得が必要だから	308
3 買いすぎや作りすぎなど無駄や廃棄が問題だから	311
4 農林漁業の体験活動や家庭菜園に興味があるから	314
5 季節に応じた伝統的な行事や郷土料理に興味があるから	317
6 食品の安全性に関する知識や食品を適切に選択する力を身に付けたいから	320
7 地元の食材に興味があるから	323
8 栄養バランスのとれた食事に気をつけたいから	326
9 「よく体を動かし、よく食べ、よく寝る」という基本的な生活習慣が必要だから	329
10 「食べる」ということについて知識をつけたいから	332
11 その他	335
計	3520

- その他
- ・こどもの成長のため
  - ・食べ物大切さをこどもに伝えたいから
  - ・食べるのが好きだから

【問7】あなたが、「食育」に関心を持ったきっかけはなんですか。(複数回答可)

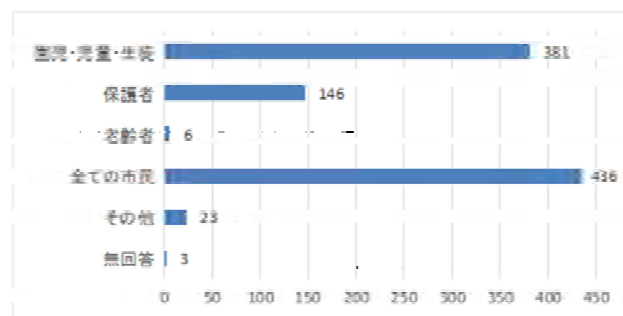
	回答数
1 学校の授業	275
2 本や雑誌	186
3 テレビ	278
4 インターネット	101
5 イベント	34
6 その他	83
計	957



- その他
- ・こども園のおたより
  - ・家族や知人の影響
  - ・仕事の関係で
  - ・食生活分野での活動を通して
  - ・病気をしたことがきっかけで

【問8】「食育」は、「だれ」を対象に進めるのが大事だと思いますか。また、その理由を教えてください。

	回答数	※複数回答あり
1 園児・児童・生徒	381	
2 保護者	146	
3 高齢者	6	
4 全ての市民	436	
5 その他	23	
無回答	3	
計	995	

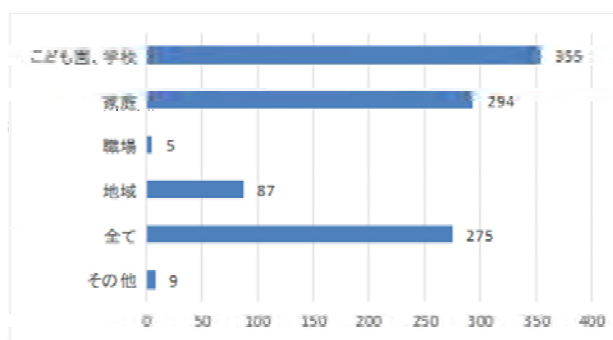


- その他
- ・家族
  - ・親子
  - ・教育現場の人
  - ・その気のある人
  - ・全員

- 理由
- 【園児・児童・生徒】
    - ・子どもの頃から知っていた方がいいと思うから
    - ・未来のあるこども達から進めるべき
    - ・子供の頃から食に関する知識や、習慣を学ぶ事で、自然と食についての意識を高める事ができると思うから
    - ・子どもが話してくれることで、親にも伝わると思うから
  - 【保護者】
    - ・親が子に伝えるべきだと思うから
    - ・食事を作るのは親だから、管理する側がきちんとした知識を身につけるべき
  - 【全ての市民】
    - ・食は全ての人に關わることだから
    - ・全ての人が健康であるため
    - ・生きてくなかで食べることは必要なため、年齢問わず、全ての人が対象だと思う
    - ・みんなが理解していないと伝わらないと思うから
  - 【その他】
    - ・子どもの内から知識・意識を持つ方が、自然とそれが「普通」になる。その為に親も知る事が大切だと思う
    - ・親子で取り組みば、家庭でも話題になる
    - ・全ての世代に見合う食育が必要だと思うから

【問9】「食育」は、「どこ」を対象に進めるのが大事だと思いますか。また、その理由を教えてください。

	回答数	※複数回答あり
1 こども園、学校	355	
2 家庭	294	
3 職場	5	
4 地域	87	
5 全て	275	
6 その他	9	
計	1,025	



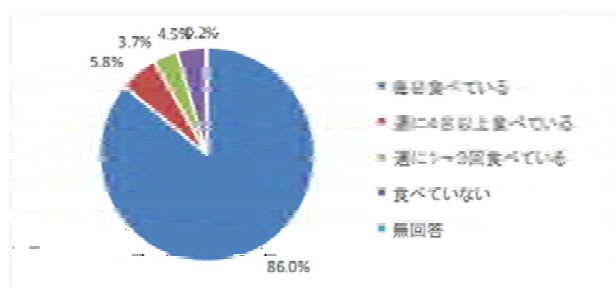
その他  
 ・学校と家庭の両方  
 ・SNSやメディア  
 ・第1に家庭。第2に給食を担うところ

理由  
**【こども園・学校】**  
 ・子供たちが集う場所はこども園・学校で、給食を通して食育を学ぶことができるし、記憶に残ると思う  
 ・授業として、食について考える時間を作ってもらえるといい  
 ・家庭の食事では、栄養バランスを考えた食事にバラつきが出てしまうため  
**【家庭】**  
 ・食事をとる回数は家庭が1番多いから  
 ・親がどんなものを選んで買い物しているか知ったり、ともに調理したりすることのできる場所は家庭だと思うから  
**【職場】**  
 ・子どもや子育て中の親は食に関して意識している人が多いと思うが、そうでない環境にある大人が食に対してルーズな場合が多いと思う  
**【地域】**  
 ・地域全体で食育を推進していけるとよいと思うから  
 ・地域で食育について知識のある方からお話をきいて親子一緒に地域の方たちと学べるのがいいと思います  
**【全て】**  
 ・食育は全ての人に必要だから  
 ・どこでも食に関することであれば、進めることができると考えるから  
 ・赤ちゃんから高齢者まで健康でありたいから  
**【その他】**  
 ・教育現場や家庭だけでは伝わらない部分もあると思います。両方で進める事で日常的な食育教育をする事で身についていくと思います。  
 ・全世代が見そうだから

### Ⅲ 食生活について

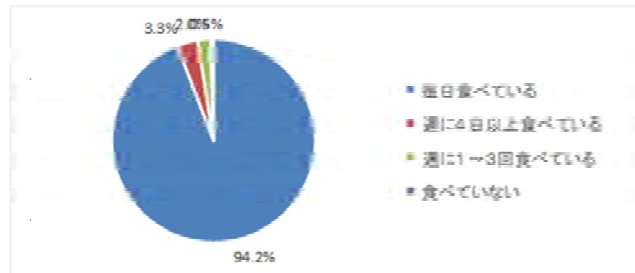
【問10】あなたは、「朝食」を食べていますか。

	回答数	回答率
1 毎日食べている	815	86.0%
2 週に4日以上食べている	55	5.8%
3 週に1～3回食べている	35	3.7%
4 食べていない	41	4.3%
無回答	2	0.2%
計	948	



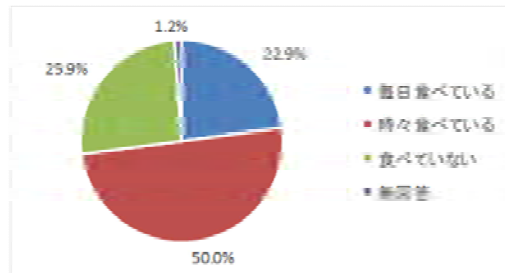
【問11】あなたのお子さんは、「朝食」を食べていますか。(こども園、小中学校のみ)

	回答数	回答率
1 毎日食べている	603	94.2%
2 週に4日以上食べている	21	3.3%
3 週に1～3回食べている	13	2.0%
4 食べていない	3	0.5%
計	640	



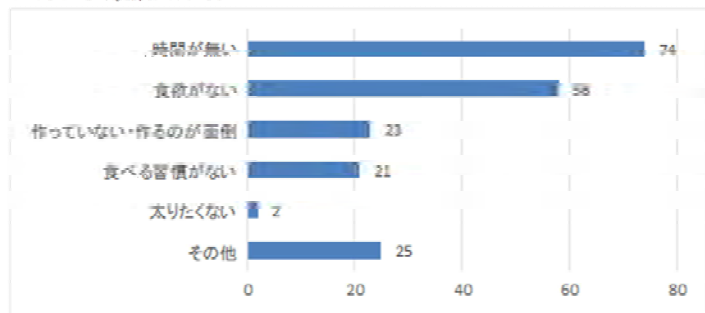
【問12】あなた、もしくはお子さんは、「朝食」に野菜を食べていますか。

	回答数	回答率
1 毎日食べている	214	22.9%
2 時々食べている	467	50.0%
3 食べていない	242	25.9%
無回答	11	1.2%
計	934	



【問13】あなた、もしくはお子さんが「朝食」を食べない理由は何ですか。(複数回答可)

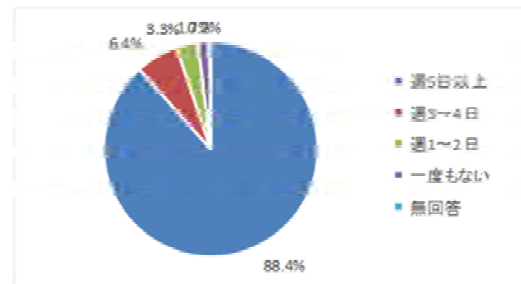
	回答数
1 時間が無い	74
2 食欲がない	58
3 作っていない・作るのが面倒	23
4 食べる習慣がない	21
5 太りたくない	2
6 その他	25
計	203



- その他
- ・朝食の内容が好みではない
  - ・朝起きるのが苦手だから
  - ・めんどくさい
  - ・プチ断食をしているから
  - ・1日3食は多から

【問14】あなたは、一週間のうちで1日最低1食家族の誰かと食事をする日は何日ありますか。

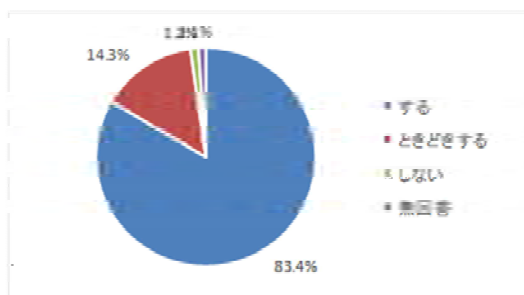
	回答数	回答率
1 週5日以上	838	88.4%
2 週3～4日	61	6.4%
3 週1～2日	31	3.3%
4 一度もない	16	1.7%
無回答	2	0.2%
計	948	





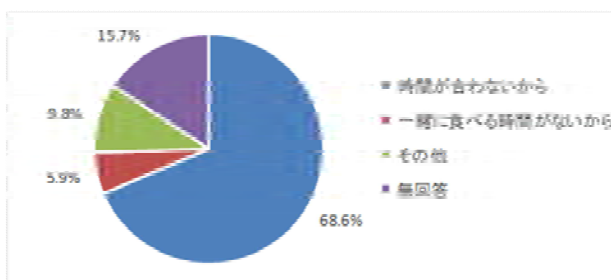
【問15】食事中会話をしますか。

	回答数	回答率
1 する	778	83.4%
2 ときどきする	133	14.3%
3 しない	11	1.2%
無回答	10	1.1%
計	930	



【問16】家族と一緒に食事をしない理由は何ですか。(高校生のみ)

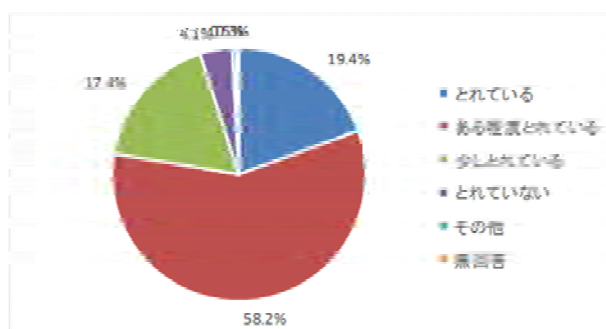
	回答数	回答率
1 時間が合わないから	35	68.6%
2 一緒に食べる時間がないから	3	5.9%
3 その他	5	9.8%
無回答	8	15.7%
計	51	



- その他
- ・けんかになるから
  - ・部活で帰りが遅く、もう夕ご飯が済んでしまうから
  - ・話すことがないから
  - ・会話をする気にならないから
  - ・家族とあまり合わない

【問17】あなたの家庭の食事は、栄養バランスのとれた食事だと思いますか。

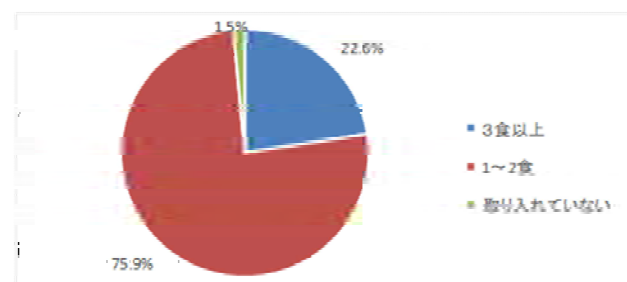
	回答数	回答率
1 とれている	184	19.4%
2 ある程度とれている	552	58.2%
3 少しとれている	165	17.4%
4 とれていない	39	4.1%
5 その他	5	0.5%
無回答	3	0.3%
計	948	



- その他
- ・わからない
  - ・たぶんとれている
  - ・とっているつもりだが、自信がない
  - ・自分以外は多分とれている
  - ・一応考えてバランスよく作っているつもり

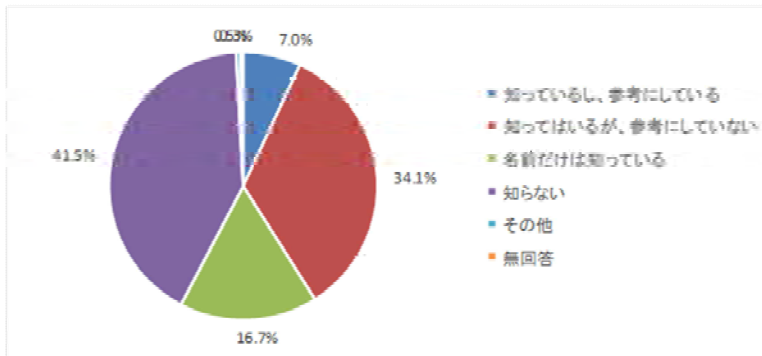
【問18】あなたは、1日に何食野菜を取り入れていますか。

	回答数	回答率
1 3食以上	214	22.6%
2 1~2食	720	75.9%
3 取り入れている	14	1.5%
計	948	



【問19】あなたは、食事バランスガイドを知っていますか。

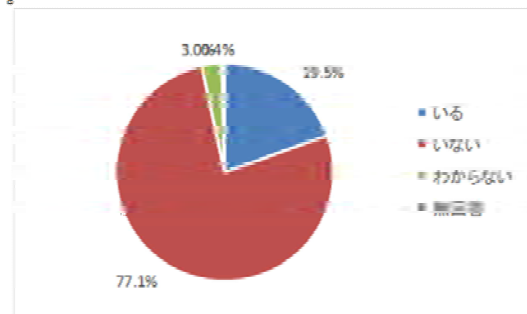
	回答数	回答率
1 知っているし、参考にしている	66	7.0%
2 知っているが、参考にしていない	323	34.1%
3 名前だけは知っている	158	16.7%
4 知らない	393	41.5%
5 その他	5	0.5%
無回答	3	0.3%
計	948	



- その他
- ・1口メモを見て見たことあるが名前は知らなかつ
  - ・1口メモで知った
  - ・知っていて参考にしたいけど、余裕がない
  - ・知っているし参考にしているがそこまできちつとできない

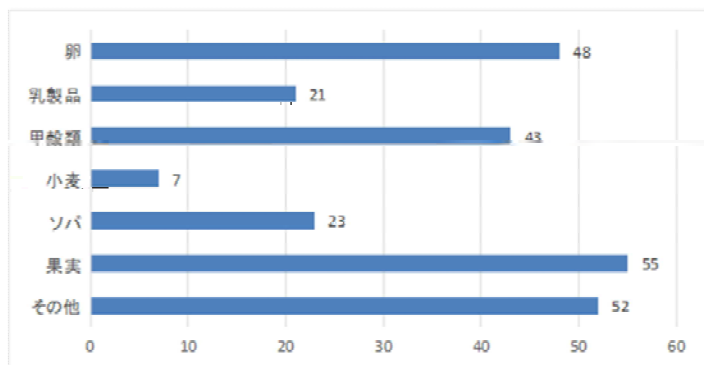
【問20】あなたもしくはあなたの家族に食物アレルギーの方はいますか。

	回答数	回答率
1 いる	185	19.5%
2 いない	731	77.1%
3 わからない	28	3.0%
無回答	4	0.4%
計	948	



【問21】どの食物に対するアレルギーですか。(複数回答可)

	回答数
1 卵	48
2 乳製品	21
3 甲殻類	43
4 小麦	7
5 ソバ	23
6 果実	55
7 その他	52
計	249



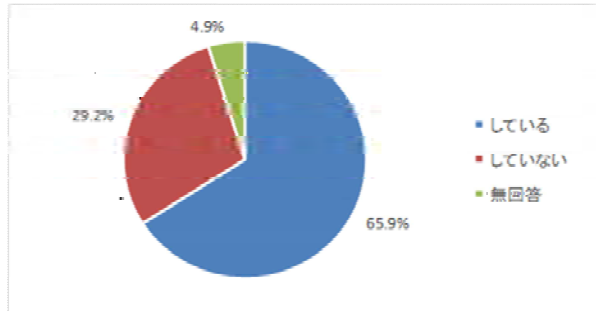


その他 [ ナッツ類、青魚(さば、まぐろ)、魚卵(いくら)、貝、たこ、パイナップル、メロン、バナナ、トマト、ごま、大豆、ヨモギ、油、牛肉、豚肉、コラーゲン、ゆず、長いも、ライ麦、りんご、スイカ、もやし、ほうれん草、山羊、生卵、レンコンなど ]

対策 [ ・食べない、食べさせない  
・除去食  
・病院での注射・投薬  
・成分表をよく確認する  
・食べられない物のかわりに同じ栄養分のとれるものを食べさせる ]

【問22】食物アレルギーに関して何か対策をしていますか。

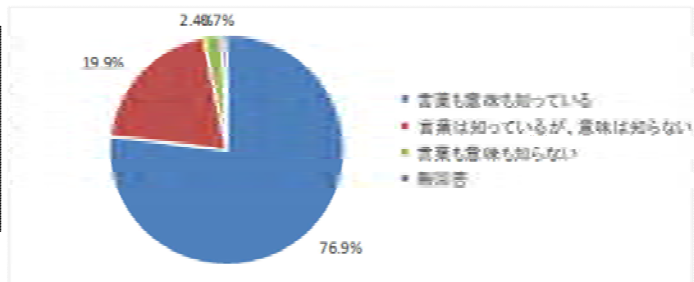
	回答数	回答率
1 している	122	65.9%
2 していない	54	29.2%
無回答	9	4.9%
計	185	



#### IV 健康について

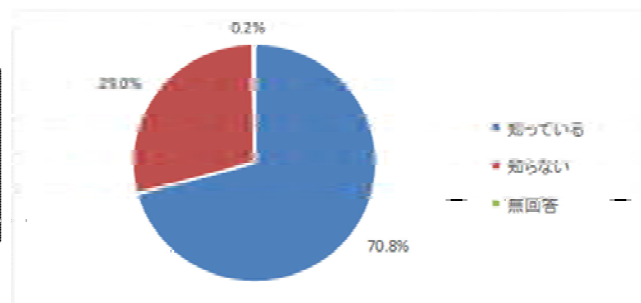
【問23】あなたは、「内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)」を知っていますか。

	回答数	回答率
1 言葉も意味も知っている	729	76.9%
2 言葉は知っているが、意味は知	189	19.9%
3 言葉も意味も知らない	23	2.4%
無回答	7	0.7%
計	948	



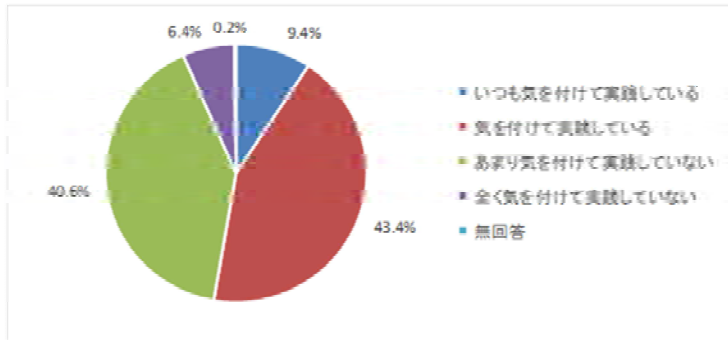
【問24】あなたは、自分の「適正体重(BMI)」を知っていますか。

	回答数	回答率
1 知っている	671	70.8%
2 知らない	275	29.0%
無回答	2	0.2%
計	948	



【問25】あなたは、生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩などに気を付けた食生活を実践していますか。

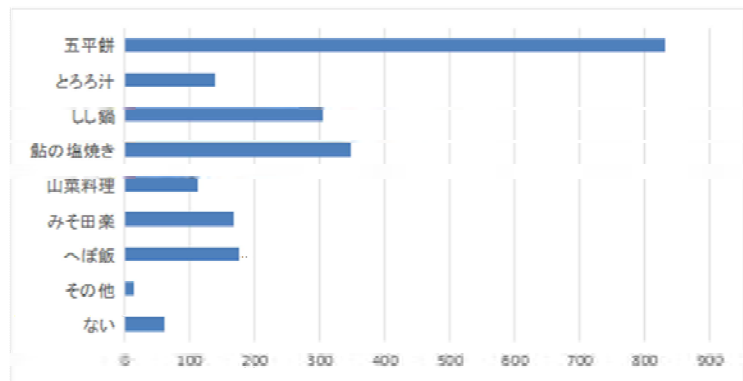
	回答数	回答率
1 いつも気を付けて実践している	89	9.4%
2 気を付けて実践している	411	43.4%
3 あまり気を付けて実践していない	385	40.6%
4 全く気を付けて実践していない	61	6.4%
無回答	2	0.2%
計	948	



## V 食文化について

【問26】「新城市の郷土料理」といって思いつくものは何ですか。(複数回答可)

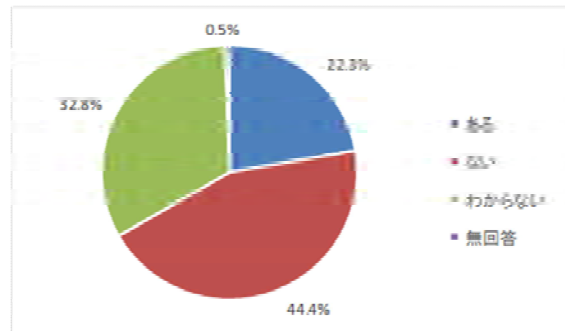
	回答数
1 五平餅	833
2 とろろ汁	140
3 しし鍋	304
4 鮎の塩焼き	349
5 山菜料理	113
6 みそ田楽	167
7 へぼ飯	176
8 その他	14
9 ない	61
計	2,157



その他 八名丸里芋、八名丸コロッケ、八名丸小里のとん汁、しんしろ茶、鳳来牛、いも煮、鬼まんじゅう、じよじよ切り、おしもん、カリモリの粕漬け、いわしはんぺん、ふな味噌、かしわ煮、ゆべし、金山寺味噌、雑煮、鶏飯、菜飯、香苺飯、もろこ寿司、おはぎなど

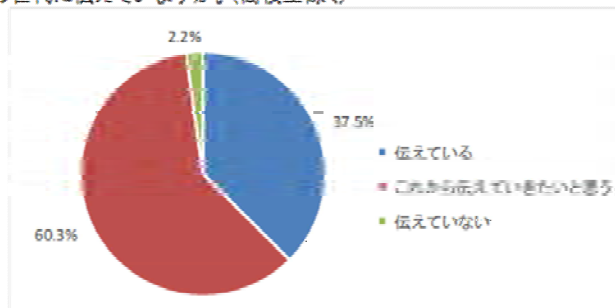
【問27】あなたの家庭では、世代を超えて受け継がれている料理や作法はありますか。

	回答数	回答率
1 ある	211	22.3%
2 ない	421	44.4%
3 わからない	311	32.8%
無回答	5	0.5%
計	948	



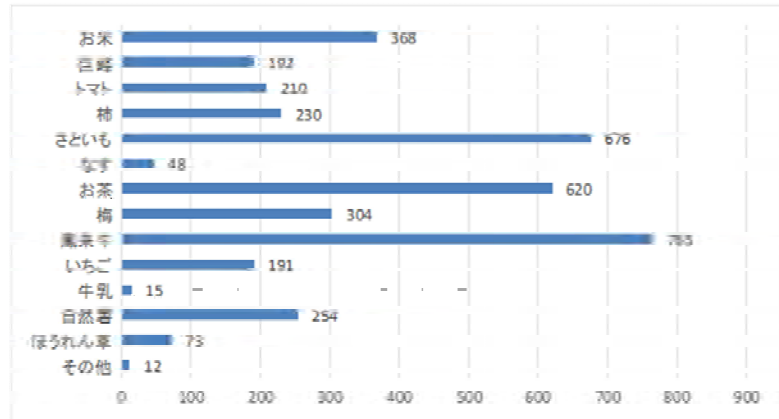
【問28】あなたは、世代を超えて受け継がれてきた料理や作法を次の世代に伝えていますか。(高校生除く)

	回答数	回答率
1 伝えている	69	37.5%
2 これから伝えていきたいと思う	111	60.3%
3 伝えていない	4	2.2%
計	184	



【問29】「新城市の農産物」といって思いつくものは何ですか。(複数回答可)

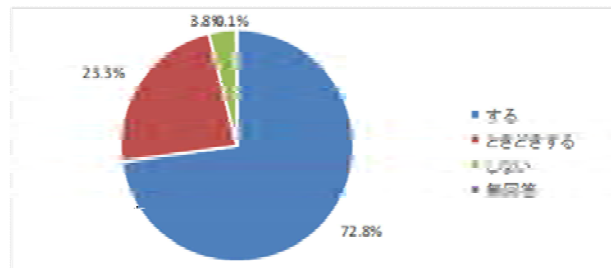
	回答数
1 お米	368
2 巨峰	192
3 トマト	210
4 柿	230
5 さといも	676
6 なす	48
7 お茶	620
8 梅	304
9 鳳来牛	765
10 いちご	191
11 牛乳	15
12 自然薯	254
13 ほうれん草	73
14 その他	12
計	3,958



その他 [ いちじく、筍、山菜、しいたけ、卵、栗、みかん、しんしろ茶、さつまいも、しいたけ、冬瓜、あけび、ブリッコリー、白菜、ねぎ、ふき、ジャガイモ、大根、スイカ、さやえんどう、かぶ、人参、午房、蓮根、小松菜、春菊、あしたば、つくし、南瓜、玉ネギ、生姜、梨、桃、スポン錦、うなぎ、手長エビなど ]

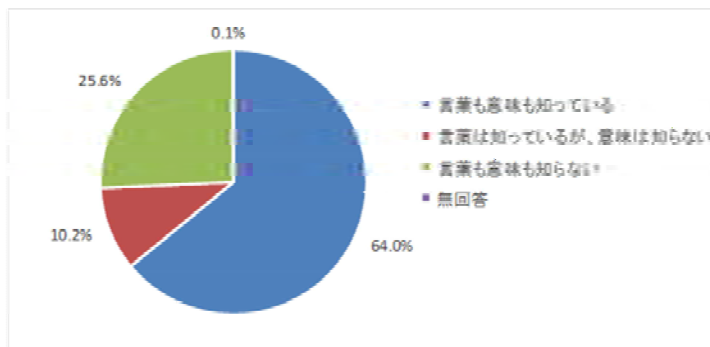
【問30】あなたは、食前食後に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしますか。

	回答数	回答率
1 する	690	72.8%
2 とまどきする	221	23.3%
3 しない	36	3.8%
無回答	1	0.1%
計	948	



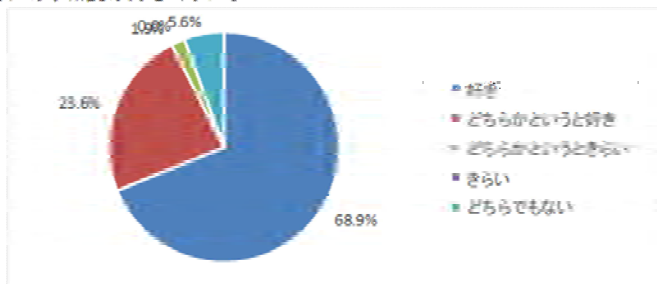
【問31】あなたは、「市産市食」を知っていますか。

	回答数	回答率
1 言葉も意味も知っている	607	64.0%
2 言葉は知っているが、意味は知らない	97	10.2%
3 言葉も意味も知らない	243	25.6%
無回答	1	0.1%
計	948	



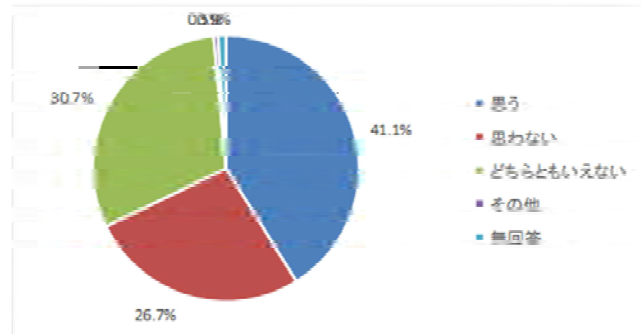
【問32】「低カロリー、高繊維質の日本食が見直されています」。あなたは、和食は好きですか。

	回答数	回答率
1 好き	653	68.9%
2 どちらかという好き	224	23.6%
3 どちらかというときらい	18	1.9%
4 きらい	0	0.0%
5 どちらでもない	53	5.6%
計	948	



【問33】和食の献立は、手間がかかると思いますか。

	回答数	回答率
1 思う	390	41.1%
2 思わない	253	26.7%
3 どちらともいえない	291	30.7%
4 その他	5	0.5%
無回答	9	0.9%
計	948	

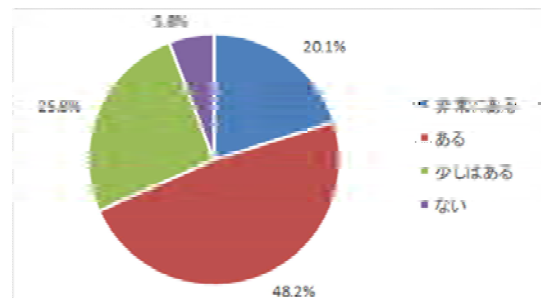


その他  
 ・手間をかければかかる、簡単に作ればかからない  
 ・メニューによる

## VI 食の安全について

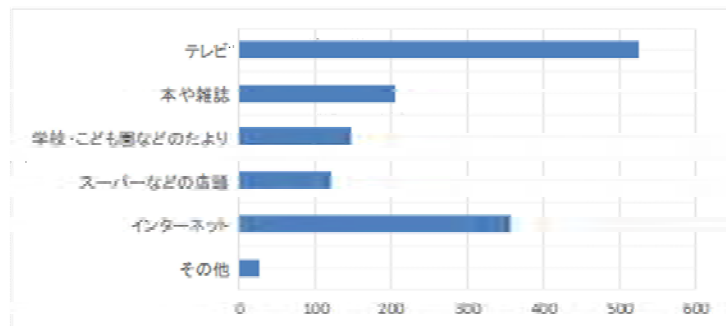
【問34】あなたは、「食の安全」について関心がありますか。

	回答数	回答率
1 非常にある	191	20.1%
2 ある	457	48.2%
3 少しはある	245	25.8%
4 ない	55	5.8%
計	948	



【問35】「食の安全性」についての情報をどこから得ていますか。(複数回答可)

	回答数
1 テレビ	526
2 本や雑誌	206
3 学校・子ども園などのたより	148
4 スーパーなどの店頭	121
5 インターネット	357
6 その他	26
計	1,384

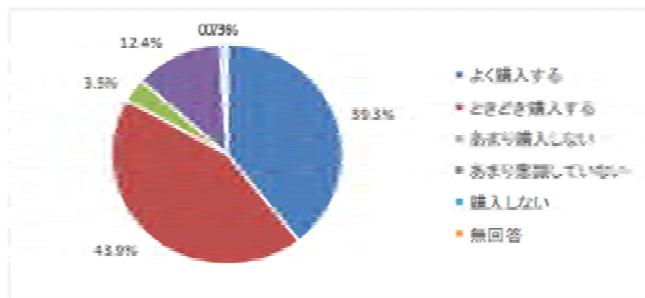


その他  
 ・職場、詳しい人から、コミュニティ、講演会、ラジオ、新聞、セミナー、oisix、子育て支援センター、SNS、家族、友人・知人、生協、まわりの人、栄養士や薬剤師、学校の授業、病院の指導、どこからも得たことがない、わからない、関心はあるが得ようとしていないなど

【問36】あなたの家庭では、農産物をスーパーや産地直売所(産直所)で購入する際、地元(市内や県内)で生産されたものをご購入しますか。

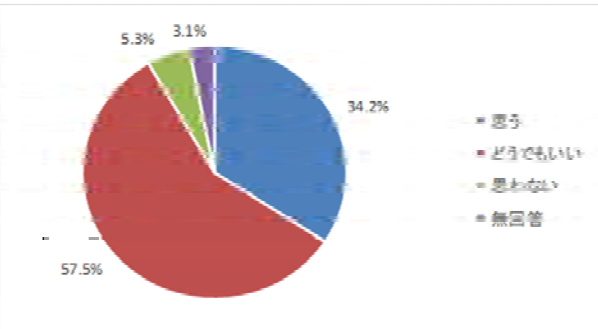
(高校生除く)

	回答数	回答率
1 よく購入する	283	39.3%
2 ときどき購入する	316	43.9%
3 あまり購入しない	25	3.5%
4 あまり意識していない	89	12.4%
5 購入しない	5	0.7%
無回答	2	0.3%
計	720	



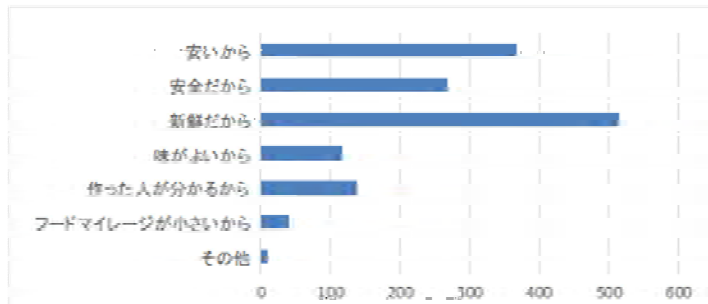
【問37】農産物をスーパーや産地直売所(産直所)で購入する際、地元(市内や県内)で生産されたものをご購入したいと思いますか。(高校生のみ)

	回答数	回答率
1 思う	78	34.2%
2 どうでもいい	131	57.5%
3 思わない	12	5.3%
無回答	7	3.1%
計	228	



【問38】あなたの家庭では、地元の農産物の購入や産直で購入するまたは、したいと思う理由は何ですか。(複数回答可)

	回答数
1 安いから	368
2 安全だから	268
3 新鮮だから	515
4 味がよいから	118
5 作った人が分かるから	139
6 フードマイルージが小さいから	41
7 その他	11
計	1460



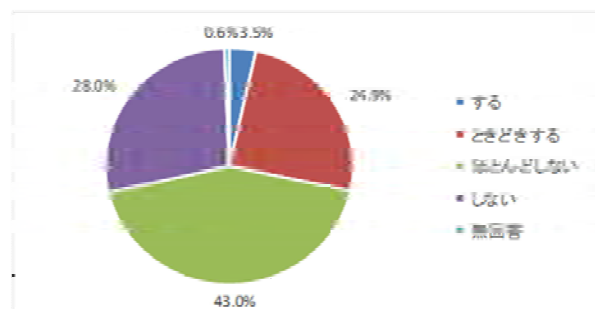
その他

- ・知ってる人だから安心
- ・たまたま農協に行けば買う
- ・地元の物という安心感があるから
- ・店が近いから、季節に応じた野菜や果物やスーパーでは並ばないものが手に入るから
- ・地元の農家を応援したいから
- ・地産地消に少しでも貢献したい為
- ・気分などによる
- ・地元の食べ物は食べたいと思うから
- ・地元への愛
- ・二酸化炭素削減になるから

## VII 環境について

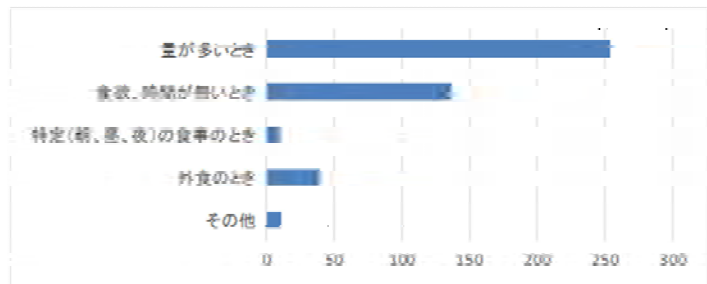
【問39】あなたは、食べ残しをしますか。

	回答数	回答率
1 する	33	3.5%
2 ときどきする	236	24.9%
3 ほとんどしない	408	43.0%
4 しない	265	28.0%
無回答	6	0.6%
計	948	



【問40】あなたは、どのような時に食べ残しをしますか。(複数回答可)

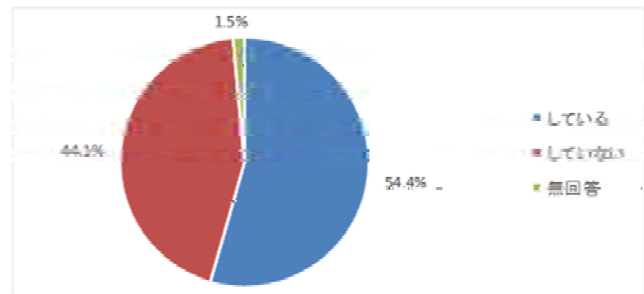
	回答数
1 量が多いとき	253
2 食欲、時間が無いとき	137
3 特定(朝、昼、夜)の食事のとき	10
4 外食のとき	40
5 その他	11
計	451



- その他
- ・体調不良のとき
  - ・口に合わなかったとき
  - ・苦手なものとき

【問41】あなたのご家庭では、食べ残しをしない工夫をしていますか。

	回答数	回答率
1 している	516	54.4%
2 していない	418	44.1%
無回答	14	1.5%
計	948	

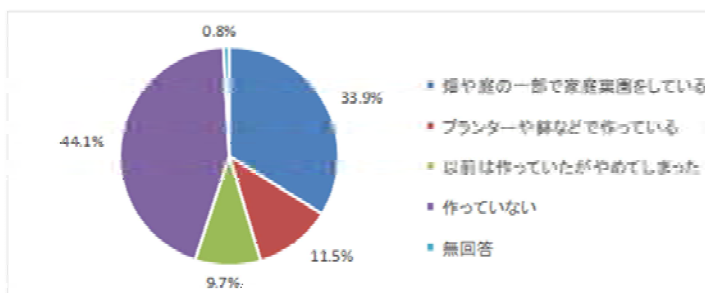


- 工夫
- ・食べきれる量を作る
  - ・少なく作る
  - ・食べられる分だけ盛り、足りなかったらおかわりする
  - ・食べられる量を本人に確認する
  - ・残ったらリメイクして翌日食べる
  - ・各自のお皿に盛り付け、残さないようにしている
  - ・好き嫌いを考慮して作る、盛り付ける

## Ⅵ 「新城らしさ」について

【問42】あなたは、家庭で野菜を作っていますか。

	回答数	回答率
1 畑や庭の一部で家庭菜園をしている	321	33.9%
2 プランターや鉢などで作っている	109	11.5%
3 以前は作っていたがやめてしまった	92	9.7%
4 作っていない	418	44.1%
無回答	8	0.8%
計	948	

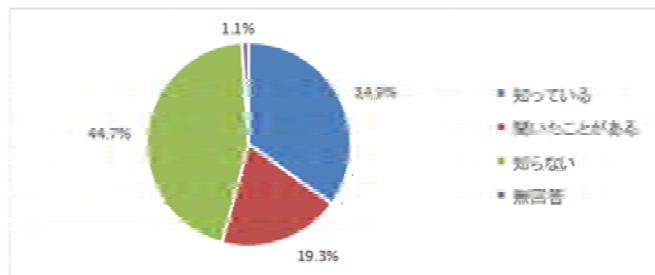




【問43】あなたは、新城市で行っている以下の事業や計画をご存じですか。

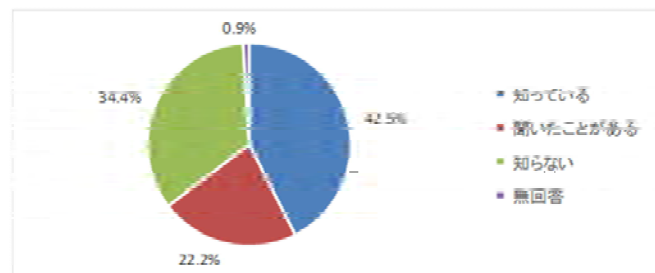
料理教室

	回答数	回答率
1 知っている	331	34.9%
2 聞いたことがある	183	19.3%
3 知らない	424	44.7%
無回答	10	1.1%
計	948	



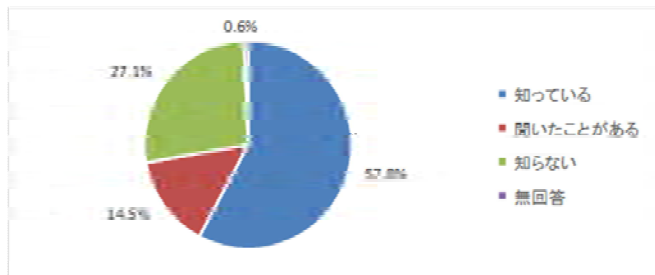
農業体験

	回答数	回答率
1 知っている	403	42.5%
2 聞いたことがある	210	22.2%
3 知らない	326	34.4%
無回答	9	0.9%
計	948	



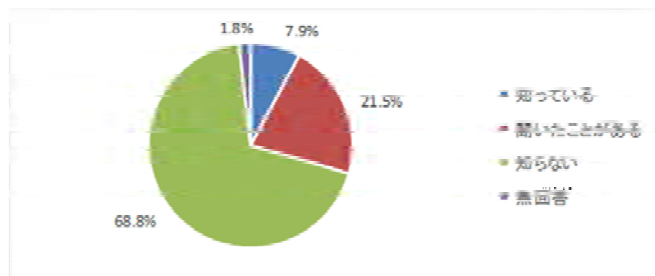
こども園・学校給食での地場産物の利用

	回答数	回答率
1 知っている	548	57.8%
2 聞いたことがある	137	14.5%
3 知らない	257	27.1%
無回答	6	0.6%
計	948	



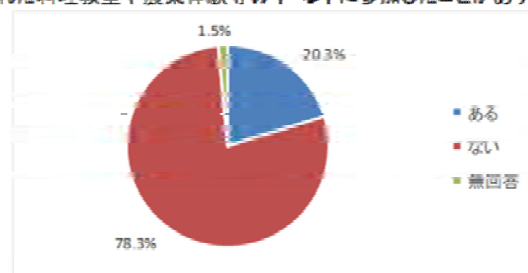
しんしろ健康づくり21計画

	回答数	回答率
1 知っている	75	7.9%
2 聞いたことがある	204	21.5%
3 知らない	652	68.8%
無回答	17	1.8%
計	948	



【問44】あなた、もしくはあなたのお子さんは今までに新城市で実施された料理教室や農業体験等のイベントに参加したことがありますか。

	回答数	回答率
1 ある	192	20.3%
2 ない	742	78.3%
無回答	14	1.5%
計	948	

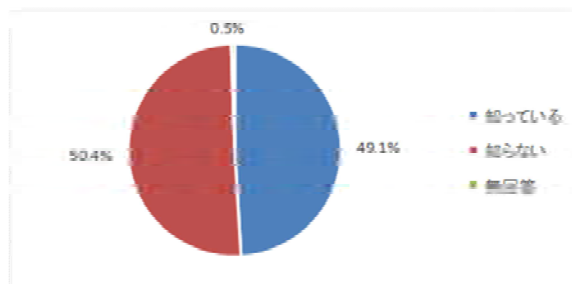


【問45】どのようなイベントに参加しましたか。

パン作り教室、JAこども農学校、料理教室、親子料理教室、そば打ち、離乳食作り、さつまいも掘り、つくで手作り村の農業体験、ケーキ作り、おかし作り、ピザ作り、田植え、稲刈り、筍掘り、日本酒づくり、茶摘み、しいたけの菌打ちなど

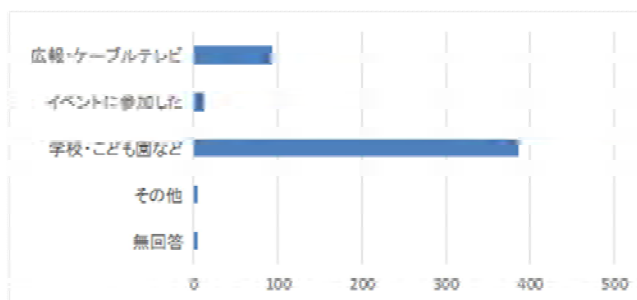
【問46】市で「食育」を推進していることを知っていますか。

	回答数	回答率
1 知っている	465	49.1%
2 知らない	478	50.4%
無回答	5	0.5%
計	948	



【問47】どこで(何で)知りましたか。

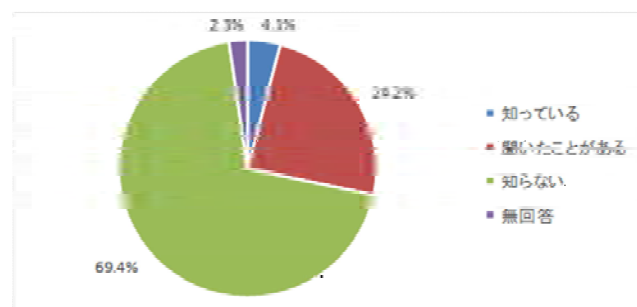
	回答数
1 広報・ケーブルテレビ	93 ※複数回答あり
2 イベントに参加した	12
3 学校・子ども園など	386
4 その他	4
無回答	6
計	501




その他  
 ・チラシ  
 ・父から聞いた  
 ・アンケート

【問48】あなたは、「新城市食育推進計画」をご存じですか。

	回答数	回答率
1 知っている	39	4.1%
2 聞いたことがある	229	24.2%
3 知らない	658	69.4%
無回答	22	2.3%
計	948	





## 新城市産業振興部農業課

愛知県新城市字東入船115番地

電話：0536-23-7632

Email：[noushin@city.shinshiro.lg.jp](mailto:noushin@city.shinshiro.lg.jp)